

平成 31 年度（令和元年度）

「基礎学力調査」

— 分析・考察と指導事例 —

令和元年 10 月
石川県教育委員会

目 次

本書の構成	1
1 教科に関する調査について	
2 質問紙調査について	
本書の活用にあたって	2
I 教科に関する調査結果の分析・考察	3
《小学校第4学年 国語》	6
《小学校第4学年 算数》	12
《小学校第6学年 社会》	20
《小学校第6学年 理科》	26
《中学校第3学年 社会》	34
《中学校第3学年 理科》	40
II 質問紙調査結果の分析・考察	47
1 小学校第4学年児童の調査結果	49
2 学習・生活状況と正答率との関係	56
3 教員の調査結果	58

本書の構成

1 教科に関する調査について

(1) 全体的な傾向の分析・考察

- ・全体的な結果の状況

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正答率	「到達状況」を示す記号, 用語
90%以上の場合	◎：良好である
80%以上～90%未満の場合	○：概ね良好である
70%以上～80%未満の場合	◇：基準に到達している
60%以上～70%未満の場合	▽：十分とはいえない
60%未満の場合	▼：不十分である

- ・分析・考察及び学習指導に当たって留意すべきこと等
- ・参考となる他の指導事例や過去の調査問題
- ・指導法改善のポイント

(3) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

	項目	内容
①	問題と解答の状況	・設問番号, 領域・分野, 出題のねらい, 評価の観点 ・関連問題 ・正答例, 誤答例, 正答率, 誤答率, 無解答率
②	指導法改善に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導法改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年, 単元 (指導内容等) ・指導のねらい ・具体例

- ・関連する「学びの12か条^{プラス}」(巻末資料参照)の項目を右のように示す。

学びの12か条+ ○

2 質問紙調査について

(1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較, 学年間比較

(2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

(3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの調査結果

本書の活用にあたって

「教科に関する調査結果の分析・考察」のページでは、以下のように、取り上げた問題に関連した指導事例や調査問題、指導にあたって留意すべきこと等を記載してあります。今後の授業の参考、取組の検証にご活用ください。

The screenshot shows a survey report interface with several callout boxes:

- ① 参考となる他の指導事例**: Points to a table of question numbers, content, and scores.
- ② 参考となる調査問題**: Points to a table with columns for question number, content, correct rate, and school correct rate.
- ③ 学習指導にあたって**: Points to a section titled '指導法改善のポイント' (Points for Improving Instructional Methods).
- ④ 指導法改善のポイント**: Points to a list of points for improving instructional methods.
- 学校正答率記入欄 (自校の正答率を記入して、分析に活用してください。)**: Points to a box for entering the school's correct rate.
- 学校正答率記入欄**: Points to a table with columns for question number, content, correct rate, and school correct rate.

① 参考となる他の指導事例

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」に掲載されている事例
- (県) … 「基礎学力調査－分析・考察－」に掲載されている事例
- (P) … WEB サイト「学力向上プログラム」に掲載されている事例

② 参考となる調査問題

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 全国学力・学習状況調査で出題された問題
- (県) … 本県の基礎学力調査で出題された問題
- (P) … WEB サイト「学力向上プログラム」に掲載されている評価問題

③ 学習指導にあたって

取り上げた問題について、調査結果を受け、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを、箇条書きで記載しています。

④ 指導法改善のポイント

今年度の調査結果より、特に課題が見られた問題について、指導法改善のポイントを記載しています。

I 教科に関する調査結果の分析・考察

小学校 第4学年
「国語」「算数」

県平均正答率	学校正答率
65.2%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

31年度（令和元年度）の平均正答率は65.2%で、30年度より3.5ポイント上回っているが、到達状況は十分とはいえない。特に「書くこと」領域においては、相手や目的に応じて、書こうとすることの中心を明確にして書くことに課題が見られ、指導法の改善が必要である。また、29年度までの出題で、主語と述語について、文中から正しく書き抜くことに関しては、基準に到達していたが、主語と述語の関係に注意して文を書くことについては、指導法の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【話すこと・聞くこと】 (県平均正答率 57.2%) (学校正答率 %)

◇：目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと〔－1〕

設問一1の正答率は、基準に到達している。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
－1	話し方の工夫	74.1%	%

今後も、筋道を立てて話すことができるように、話の中心を明確にして発表の組み立てを考えたり、分かりやすい発表の例から組み立てのよさを見付けたりする指導を行うことが大切である。

(県) H26：事例1 (県) H28：－1 H27：－1

▼：話の中心に気を付けて聞き、分からない点や確かめたい点を質問すること〔－3〕

設問一3の正答率は、30年度に引き続き不十分である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
－3	聞き方の工夫	23.2%	%

目的に応じて、的確に質問する学習が不十分であると考えられる。

(県) H30：事例1 (P) 2016：小3 (県) H30：－2 H26：－2

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要があると考えられる。

- ・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えさせること
- ・聞きたいことの中心を明確にして質問する経験をさせること

【書くこと】 (県平均正答率 55.4%) (学校正答率 %)

◇：文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように書くこと〔八2条件〕

設問八2条件の正答率は、基準に到達している。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八2条件	文章全体における段落の役割(条件)	78.2%	%

今後も、条件に即して書く指導を意図的・計画的に行うことが大切である。

(県) H25：事例2 H22：事例1

(県) H30：八1 H29：八3 H28：八1 H27：八1 H26：八3

▼：相手や目的に応じて、書こうとすることの中心を明確にして書くこと〔八2内容〕

設問八2内容については、p.10参照。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八2内容	目的に応じて適切に書く(内容)	46.6%	%

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

(県) H28：事例1 H23：事例1 (P) 2017：小3

(県) H30：八1 H29：八3 H28：八1

- ・相手や目的に応じて、調べた情報を整理する中で、伝えたいことを明確にする経験をさせること
- ・相手や目的を意識させ、書こうとすることの中心を明確にしながら文章を書く経験をさせること

【読むこと】 (県平均正答率 62.6%) (学校正答率 %)

◇：目的に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読むこと〔二1〕

設問二1の正答率は、基準に到達している。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二1	説明的文章の内容理解	75.1%	%

今後も、目的に応じて、文章中の重要な語や文を書き抜く学習活動を行うことが大切である。

(県) H30：二2 H29：二3 H28：二5

▼：目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係を考え、読むこと〔二2〕

設問二2の正答率は、不十分である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二2	段落相互の関係	55.8%	%

段落相互の関係から文章全体の組み立てを捉え、それぞれの段落の役割について考える学習が不十分であると考えられる。

(県) H27：事例2 H25：事例1 (県) H25：二1(1)

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要があると考えられる。

- ・目的に応じて中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を捉えさせること
- ・段落相互の関係から、それぞれの段落が文章の中でどのような役割をもっているかを考えさせること

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 (県平均正答率 70.9%) (学校正答率 %)

○：指示語が文と文の意味のつながりに果たす役割を理解すること〔三3〕

設問三3の正答率は、概ね良好であり、30年度の類似問題を41.9ポイント上回った。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
三3	指示語	84.0%	%

指示語の役割を理解し、使うことの指導が充実してきたためであると考えられる。

(県) H29：三2(2) H21：三4

▼：主語と述語との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと〔三4(2)〕

設問三4(2)については、p.8参照。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
三4(2)	主語と述語の照応関係	40.6%	%

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要があると考えられる。

(全) H30：p.3 (県) H30：三4 H29：四1① H28：五① H27：四

- ・伝えたいことを正確に伝える上で、主語と述語の照応関係が重要であることに気付かせること
- ・主語と述語の照応関係に注意して書いたり、書いたものを常に見直したりする習慣を身に付けさせること

指導法改善のポイント

- 伝えたいことを正確に伝えるために、主語と述語を照応させて文を書く学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 相手や目的に応じて、書こうとすることの中心を明確にしながら書く学習活動を充実すること (→ 事例2)

ア 事例1
伝えたいことを正確に伝えるために、主語と述語を照応させて文を書く学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
三 4(2)	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	主語と述語の関係に注意して、文章を正しく書くことができる。	言語についての知識・理解・技能

三 4(2) 心にのこったことは、みんなで声を合わせました。の文では、主語と述語のつながりが合っていないことに気づきました。「心にのこったことは、みんなで声を」につづけて、文の意味がかわらないように正しく書き直しましょう。

正答例	誤答例			
・(心にのこったことは、みんなで声を) 合わせたことです。	・合わせました	・出しました	・そろえました	・合わせた
正答率(準正答率)	誤答率	無解答率		
40.6% (10.4%)	49.1%	10.3%		

② 指導法改善に向けて

主語と述語の照応関係に注意して、文を書き直すことを求める問題だったが、誤答率も無解答率も高かった。誤答から、主語と述語の照応関係に注意して文を書いたり、書いた文を読み返して書き直したりする習慣が身に付いていないことが考えられる。

指導に当たっては、伝えたいことを正確に伝えるために、主語と述語の照応関係が重要であることに気付かせること、照応関係に注意して書いたり、書いたものを常に見直したりする習慣を身に付けさせることが大切である。

③ 改善事例 第2学年 年間を通した主語・述語の学習 光村二年下

1 指導のねらい
伝えたいことを正確に伝えるために、主語と述語の関係に注意して、文や文章を読んだり表現したりする。

2 具体例

「主語と述語」(教科書 P21~22)

一年間の学習を通して、「伝えたいことを正確に伝えるために」という主語と述語について学ぶ目的を貫きましょう。

ねらい 文が主語と述語で構成されていることを知り、伝えたいことを伝えるときは、そのつながりが大切であることを理解することができる。

お手紙をもらって、とてもよろこびました。

お手紙をもらって喜んでいてのは、だれだったかな。

かえるくんだったかな？
がまくんだったかな？

文に「だれが」がないと、分かりにくいな。

導入では、既習の『お手紙』の文を取り上げ、内容を想起させることで、主語や述語の大切さに気付かせましょう。

お手紙をもらって、がまくんは、とてもました。

お手紙をもらって、がまくんは、どんな気持ちになったかな。

うれしかったのだったかな。
喜んでいてのだったかな。

「だれが」が分かっても「どうしたか」が分からないな。



伝えたいことを正しく伝えるために、「だれが」(主語)と「どうした」(述語)のどちらも大切ですね。

がまくんが
がまくんは
お手紙が
これは

言いました。
かなしそうだ。
来ました。
お手紙だ。

主語

述語

だれが(は)
何が(は)

どうする。
どんなだ。
なんだ。

これから伝えたいことを正しく伝えるために、「主語」と「述語」を文に入れて書こう。



「お話の作者になろう」教科書 P28～33

自分で考えた登場人物の様子や行動が、読んでいる人に伝わりやすい文になっているか、声に出して読み、主語と述語のつながりを確かめさせましょう。



「三まいのおふだ」教科書 P80～81

お話のおもしろさを相手に分かりやすく紹介できるように、主語と述語の整った感想の話し方(「このお話のおもしろかったところは、〇〇が□□したところですよ。」)をつかませましょう。



「楽しかったよ 二年生」教科書 P118～124



文章を読んでみたら、 の2文がおかしいと思ったんだけど。

主語と述語をつなげて声に出して読んでみましょう。



「がんばったことは、出しました」では、おかしい文だね。主語と述語のつながりがおかしいのね。



「真っ赤になっていました」と述語は書かれているけれど、「何が」真っ赤になったのかな。主語が書かれていないよね。



主語の「がんばったことは」に合わせて、述語を「出したことです」に書き直したらいいね。



つなを力いっぱい引いたから、手のひらが、真っ赤になったんだね。「手のひらが」という主語を書くと、文の意味がよく分かるね。



主語と述語をつなげて読んでみると、間違いが分かるね。これからは、主語と述語のつながりに気を付けて、書いた文章を声に出して読み返そうね。



日頃から、主語と述語の照応関係に注意して書いたり、書いたものを見直したりする習慣を身に付けさせましょう。そして、間違いに気付いたら、書き直す習慣も身に付けさせましょう。



【教師作成の誤りのある文章】

思い出にのこったうんどう会
ぼくは、うんどう会のつなひきが、こころにのこっています。れんしゅうでは、まけてばかりだったけれど、うんどう会では、かつことができませんでした。うれしかったです。
つなひきで**一ばんが**がんばったことは、大きな声を出しました。れんしゅうのあと、がっかりしている**と、先生が、「つなをひくとき、みんなで声を出す」と力が出るぞ。」
と言ってくれました。
みんなで大きな声を出したら、これまでのつなひきの中で、一ばん力が出たような気がしました。
つなを力いっぱい引いたので、**まっ赤になっていました**。らいねんのつなひきも**がんばりたい**と思いました。**

つなひきで**一ばんが**がんばったことは、大きな声を出したことです。****

つなひきがおわったあと、手のひらが、まっ赤になっていました。

イ 事例2

相手や目的に応じて、書こうとすることの中心を明確にしながら書く学習活動を充実させること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
八 2内容	書くこと	相手や目的に応じて、書こうとすることの中心を明確にしながら書くことができる。よりよい表現に書き直すことができる。	書く能力

八2 ほうこくする文章の「**終わり**」を書こうと思います。次のことに注意して書きましょう。

- ※ 【組み立てメモ】の「」の内容をすべて使って書くこと。
- ※ 「せんたく板を使うと、」につづけて書き、一つの段落で、六十字より多く書くこと。ただし、八十字をこえないこと。
- ※ 感じたことや考えたことがより分かりやすかつたわるように、次の【分かりやすかつたえるための言葉】を、かならず一つは使って書くこと。

【分かりやすかつたえるための言葉】・べんり ・役立つ ・かんしん ・おどろく

正答例	誤答例	
せんたく板を使うと、水や電気のでつやくになります。思ったより、よごれが落ちたので、おどろきました。ほかにも、むかしの道具について調べたいです。	せんたく板を使うと、水や電気のでつやくになり、お金もいらないのでべんりです。思ったよりよごれが落ちるけど、ずっとあらっていると手がつかれます。	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
46.6% (0.0%)	42.6%	10.9%

② 指導法改善に向けて

【組み立てメモ】を基に、「**終わり**」の部分を書く問題であったが、誤答率も無解答率も高かった。誤答から、書こうとすることの中心を明確にするための相手意識や目的意識が不足していると考えられる。

指導に当たっては、「**はじめ**」中「**終わり**」のそれぞれのまとまりで書こうとすることの中心を明確にするために、相手や目的を意識させ、文章を書く経験を積ませる必要がある。

学習のいずれの場面においても、伝えたい相手や目的、書こうとすることの中心を児童に問い返し、自分が何を伝えたいのかを意識して書こうとする態度を身に付けさせることが大切である。

③ 改善事例 第3学年『気になる記号～記号のよさをほうこくします～』 光村三年上

1 指導のねらい

- ・相手や目的に応じて書く事柄を集め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（書くことア）
- ・自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して報告文を書くことができる。（書くことイ）

言語活動：記号のよさを友だちにつたえるほうこく文を書こう

単元計画	第一次	1時 「記号クイズ」を通して、記号に関心をもつ 2時 教師作成の報告文を基に、単元の見直しをもつ 《記号のよさを友だちにつたえるほうこく文を書こう》
	第二次	3・4時 身の回りの記号を集め、情報を記号カードにまとめる 5時 集めた材料を整理して、2つの記号を選び、伝えたいことを明確にする 6・7時 教師作成の報告文をもとに、報告文の組み立てを確かめ、報告文を書く
	第三次	8時 報告文を読み合い、感想を伝え合う

2 具体例

1時 「記号クイズ」を通して、記号に関心をもつ



仲間分けの観点の例
色・形・場所・絵・文字など



ぼくは絵の種類で分けたよ。
人の絵の記号はもっとあるかな。



先生の集めた記号は、
どんな仲間に分けられるかな。

私は、色で仲間分けができたよ。
色を決めてもっと記号を集めたいな。



2時 教師作成の報告文を基に、単元の見直しをもつ

《記号のよさを友だちにつたえるほうこく文を書こう》

目的（「記号のよさ」を伝えること）を明確にしておきましょう。



5時 集めた材料を整理して、2つの記号を選び、伝えたいことを明確にする

【記号カード】

【教師作成の報告文】

記号	黄色の四角のまん中に 黒色で子どもの絵	黄色の四角のまん中に 黒色で電車の絵
場所	通学路のかど	通学路の通のはし
色	黄と黒	黄と黒
形	四角	四角
意味や つたえたいこと	学校 ようち園 ほいく園など あり この先に学校やようち園、ほいく園のような子どもがいる場所があることをつたえている。	ふみ切り あり この先にふみきりがあることをつたえている。
考えたこと	この先に学校があるから、子どもが道路にとび出してくるかもしれない。だから、うんてん手にちゅう意しながらうんてんするように、つたえてくれているのではないかな。	この先に線路があるから、ふみ切りの前で止まらなければいけない。そして、わたる人に電車が通らないかたしかめてわたるように、つたえてくれているのではないかな。

色でちゅう意させる記号

わたしたちのみのまわりには、さまざまな記号があります。わたしは、赤い記号がたくさんあることに気がつき、赤い記号のよさについて知りたいと思いました。そこで、赤い記号はどんなことをつたえる記号なのかを調べました。

見つけた記号をカードに一つずつ書きました。カードには絵や場所、色、形、意味やつたえていることを書きました。意味は本で調べて書きました。また、そのときに気づいたことや考えたことも書き出しました。

調べた記号の中から、わたしがえらんだのは、次の2つです。

①は、通学路のまがり角で見つけました。「車は、この道には入ってはいけません」という意味の記号です。赤色のまるのまん中に、白い横ぼうが一本入っています。まっ赤で目立つので、車のうんてん手も気がつきやすいのではないかと考えました。

②も、通学路で見つけた記号です。「車は時そく50キロをこえてはいけません」という意味です。道路のはしにあって、数字がさい高そくどを表しています。まわりが赤色で目立ち、まん中に大きく数字が書いてあるので、遠くからでも見やすくなっていると気がつきました。

2つとも、赤色が使われています。赤色は目立つので、うんてん手は記号に気づきやすく、つたえたいことが早くつたわると考えました。

常に目的「記号のよさ」を伝えることを意識させましょう。



選んだ記号のよさは何かな？



私は、『黄色い記号』を報告したいよ。
2つの記号に共通しているところは何かな。

どちらも形が四角だということかな。



共通していることを見付けましたね。
2つの記号に共通しているよさは何かな。

目的（「記号のよさ」を伝えること）に立ち返らしましょう。

2つの『黄色い記号』に共通しているいいところは、注意することを伝えてくれることだね。



注意することを先に伝えてくれるから、事故に遭わないように気を付けられるね。

『黄色い記号』のよさを見付けることができましたね。これで、報告文の「感想」の部分を書くことができますね。

県平均正答率	学校正答率
72.9%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

31年度（令和元年度）の平均正答率は72.9%で、30年度より2.2ポイント下回っているものの、到達状況は基準に到達している。「数と計算」領域における乗法の式で求められる問題の選択、「図形」領域におけるコンパスの使い方の理解の正答率については、過年度の同趣旨の設問を20ポイント程度上回っており、改善が図られている。一方、見いだした事実、判断や考えの理由を記述する設問は全て正答率が60%未満であり、不十分である。無解答率も10%を上回っている。言葉や数、式などを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたことを表現したりすることに課題が見られる。また、「数と計算」領域では、分数の意味と表し方を理解すること、「量と測定」領域では、時刻を読み取ることに課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【数と計算】 (県平均正答率 79.9%) (学校正答率 %)

◎：基本的な四則計算をすること〔1(1)(2)(3)〕

基本的な四則計算については良好である。

今後も、計算の技能については、算数科の基礎となる能力として確実に身に付くよう、児童の学習状況を見ながら、適宜練習の機会を設けたり、適切な反復による学習を位置付けたりして指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(1)	波及的繰り上がりのある加法計算	95.3%	%
1(2)	波及的繰り下がりのある減法計算	91.5%	%
1(3)	整数－分数	94.9%	%

(県) H27～H30：1

▼：分数の意味と表し方を理解すること〔2(3)〕

設問2(3)については、p.14参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(3)	分数の意味と表し方	48.4%	%

(県) H28：事例1 (全) H22：A3 (県) H30：2(4) H29：2(4)

- ・ 図等を用いて、分数を表し、大きさを読み取ったり比べたりする学習活動に取り組むこと
- ・ 分割分数と量分数の意味の違いを理解させる指導を工夫すること

【量と測定】 (県平均正答率 73.8%) (学校正答率 %)

○：全体・容器・正味の重さの関係を読み取ること〔2(6)〕

27年度の同様の設問と比べると、5.5ポイント下回っているものの、正答率は80.0%であり、概ね良好である。今後も数量の関係を図に表す活動を充実させ、全体・

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(6)	全体・容器・正味の重さの関係	80.0%	%

(県) H25：事例2 (県) H27：5(2) H26：6(1)(2)

容器・正味の重さの関係を捉えていく必要がある。重さに限らず、問題解決の際には、必要な情報を整理して図に表したり、その図を基に得られた結果が正しいか振り返ったりするよう指導することが大切である。

▽：時刻を読むこと〔7(1)〕

短針・長針の位置と時刻の対応を理解し、時刻を読むことに課題がある。特に、短針の位置と時刻の関係について理解させる指導が十分でないと考えられる。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7(1)	時刻の読み取り	66.3%	%

(県) H24：3(2) (P)「時こくと時間」

- ・ 時計の観察や操作を通して、短針の位置と時刻の対応を理解させる指導を充実すること
- ・ 日常生活の中で時刻を読む機会を確保したり、時刻と日常生活を関連付けて捉えさせたりすること

【図形】**(県平均正答率 79.8%) (学校正答率 %)****○：直角二等辺三角形を用いて，図形を構成したり分解したりすること〔2(2)〕**

この設問については29年度の設問に比べ13.7ポイント上回り、概ね良好である。色板などの具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにすることが重要である。その際、示された図形が実際にできるかどうかを確かめる学習活動を充実させていく必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(2)	直角二等辺三角形の敷き詰め	88.0%	%

(全) H31：1(2) H28：B 5(2) (県) H29：2(6)**◇：コンパスの使い方について理解すること〔3(2)〕**

設問3(2)の正答率は74.4%で基準に到達している。今後も日常的な場面を取り上げ、円による模様づくりなどを行うことで、コンパスの操作に慣れさせたり、かきたい模様をかくために、針と鉛筆をどこに位置付ければよいかを考えたりする活動を充実させることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3(2)	コンパスの使い方の理解	74.4%	%

(全) H28：B 3(3) H24：A 7 (県) H29：7(1) H27：6(1)**【数量関係】****(県平均正答率 57.3%) (学校正答率 %)****◇：思考モデルから解決方法を読み取り，他の場合へ適用すること〔4(1)〕**

29年度の同様の設問と比べると、5.4ポイント上回っており、正答率は70.4%と基準に達している。複数の情報について、問題文と式を関連付けながら解釈し、問題解決のために必要な情報を選択することを通して、示されたモデルを場面に応じて適用させる活動をより一層充実させていく必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(1)	思考モデルから解決方法を読み取り，他の場合への適用	70.4%	%

(全) H31：3 H30：B 4(1) (県) H29：4(3) H24：4**▼：グラフの読み取りを根拠とした，正しい理由を説明すること〔8(2)〕**

設問8(2)については、p.16 参照。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8(2)	グラフの読み取りを根拠とした正しい理由の説明	30.2%	%

(県) H30：事例2 H29：事例2**(全) H31：2(3) H28：B 4(3) (県) H30：8(2) H29：5(2)**

- ・資料の特徴や傾向を読み取る際には、目的に応じて、差を求めたり、何倍かを求めたりすることで、資料の中の数量の大きさの関係を読み取ることができるようになること
- ・複数のグラフを比較して読み取った事実を根拠に、決められた観点において判断した理由を過不足なく表現する場を意図的に設定すること

指導法改善のポイント

- 分数の意味や表し方を理解できるよう、図等を用いて分数を表し、大きさを読み取ったり比べたりする活動を重視すること (→ 事例1)
- グラフから情報を正しく読み取り、示された事柄に対して判断した理由を、言葉や数を用いて表現する活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

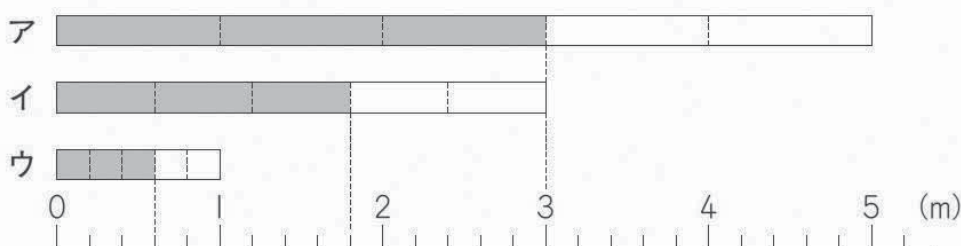
ア 事例 1

分数の意味や表し方を理解できるよう、図等を用いて分数を表し、大きさを読み取ったり比べたりする活動を重視すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
2(3)	数と計算	分数の大きさについて理解している。	数量や図形についての知識・理解

(3) 色をぬったところの長さが $\frac{3}{5}$ m になっているテープはどれですか。下のア～ウから一つえらんで、記号を書きましょう。



正答例	誤答例	
ウ	ア	
正答率	誤答率	無解答率
48.4%	51.4%	0.3%

② 指導法改善に向けて

2(3)は、29年度2(4)と同一の趣旨の設問であり、正答率は、48.4%と不十分である。29年度と比べて、正答率は20.6%下降しており、分数の意味と表し方の理解に課題がある。

誤答では、アを選択した児童が多く、図に示されている数（色をぬった部分の大きさの目盛りを示す数値の3と全体の大きさを示す目盛りの数値の5）で判断しているようである。要因としては、「5mの $\frac{3}{5}$ 」というように元の大きさのどれだけにあたるかを表す分数（分割分数）と、「 $\frac{3}{5}$ m」のように測定したときの量の大きさを表す分数（量分数）の違いに着目させたり、 $\frac{1}{5}$ mは1mを5等分した1つ分の長さであるから、 $\frac{1}{5}$ mの5つ分の長さが $\frac{5}{5}$ mで、1mと同じ長さになるというように筋道を立てて考えさせたりする指導が十分でなかったことが考えられる。また、 $\frac{3}{5}$ mが1mより小さいという量感を身に付けさせる指導が不足していたことも考えられる。

指導に当たっては、折り紙やテープなどの具体物を使って、分数の大きさを捉える経験を通し、分数の意味や表し方について理解できるように指導することが大切である。また、分割分数と量分数を比べて違いを明確にし、それぞれの意味を理解させる学習活動を充実させることが必要である。その際、取り上げた分数を図や数直線に表したり図や数直線に表した大きさを分数で表したりすること、図等に表された大きさを分割分数でも量分数でも表したりする活動に取り組むこと、量分数の基準になる大きさ（1m, 1L等）を意識付けることが大切である。

③ 改善事例 第2・3学年「分数」

1 指導のねらい

分数の意味や表し方を理解できるようにする。

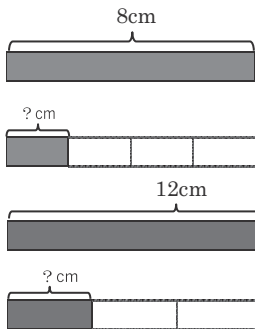
2 具体例

分割分数と量分数の意味の違いを理解させる指導法について教えてください。



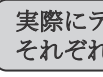
(1) 元の大きさを意識させる活動 (分割分数: 2学年)

問 同じ長さになるように
テープを4つに分けます。
1つ分の長さを調べましょう。



元の長さが違う場合で比較するとよいでしょう。

具体的に2学年ではどんな場面で指導すればよいですか？



実際にテープを4等分して青のテープの1/4と赤のテープの1/4ではそれぞれ長さが異なることを実感させます。その後どう発問しますか？

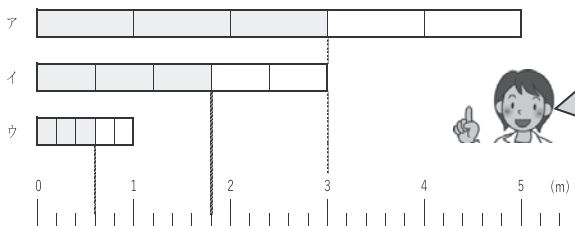
「青のテープの1/4と赤のテープの1/4では同じ1/4だけど、どうして長さがちがうのかな？」と聞いてはどうでしょう？



そうですね。元の長さが違うとその1/4の長さがちがうことを説明できますね。さらに元の長さが等しい場合はその1/4の長さも等しいことも確認するとよいですね。

(2) 測定した時の量の大きさを読み取る活動 (量分数: 3学年)

問 色をぬったところの長さが
3/5 mのテープはどれでしょう？



左のようなテープ図から3/5 mを選ぶ際、3学年の指導ではどのようなことに気を付ければよいですか？



どれも5等分した3個分の長さだから全て3/5 mと考える児童がいるかもしれませんね。そんな時は「どれも同じ長さでいいの？」「3/5 mはどんな長さなの？」と問い返すことで量分数の意味を確認しましょう。

3/5 mは1 mを5等分した3個分の長さだから正しいのはウだ。こういった説明でよいのですか？



この他に3/5 mは1 mより短いからウになるという説明も児童から出るとおもいます。



そうですね。元の大きさに着目した説明や量感を基にした説明はおおいに褒めましょう。さらにアやイのテープの長さも考えてみましょう。

アは5 mの3/5の長さだけど…5 mを5等分した1個分の長さが1 mだからその3個分で3 mです。



イは3 mの3/5の長さだけど…数直線での目盛り9個分だ。数直線1目盛りが1/5 mだからイのテープの長さは1/5 mが9個分で9/5 mですね。

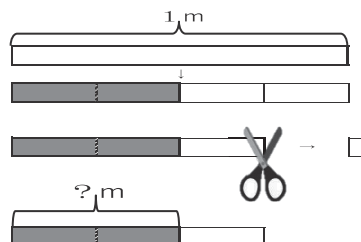


例えば1/3 mなら1 mを3等分したひとつ分の「長さ」です。1/3 mが2個分で2/3 m、1/3 mが3個分で3/3 m…と単位分数に着目した指導も併せて行いましょう。また、読み取りだけでなく分数巻尺をつくったり色々なものを測ったりするなど作業的・体験的な活動も取り入れながら、量感を基にした理解につなげていきましょう。



さらに量分数における基準になる大きさ(1 m, 1 L等)と分割分数における元の大きさととのちがいを意識させるために、下のような問題を提示することも考えられます。

問 1 mのテープを半分、そのまた半分に折ります。
折り目の2つ分まで色をぬります。
右はじの目盛り線をハサミで切り分けます。
残ったテープの色をぬった部分の長さは何m
ですか？



2/3 mと答える児童がいた場合は、再度、量分数の基準となる大きさと1/4 mが2個分であることについて確認しましょう。

イ 事例2

グラフから情報を正しく読み取り、示された事柄に対して判断した理由を、言葉や数を用いて表現する活動を充実すること

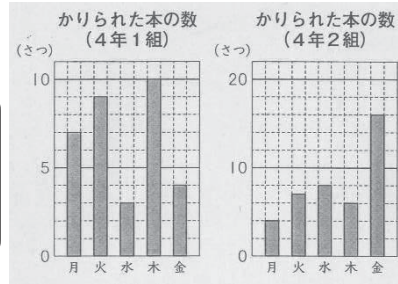
① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
8(2)	数量関係	グラフから読み取った数値を根拠に、正しい理由を説明することができる。	数学的な考え方

8(2) ひろしさんは、4年1組と4年2組のぼうグラフを見て、次のように言いました。



金曜日のぼうの長さをくらべると、4年2組のぼうの長さは、4年1組のぼうの長さの2倍だけど、金曜日にかりられた本の数でくらべると、4年2組の本の数は、4年1組の本の数の4倍です。



ひろしさんの言った「金曜日にかりられた本の数でくらべると、4年2組の本の数は、4年1組の本の数の4倍です。」は正しいです。

そのわけを、**2つのぼうグラフから読みとれること**をもとに、言葉や数を使って書きましょう。

正答例	誤答例	
4年1組のグラフの本の数を表す1めもりは1さつで、4年2組のグラフの本の数を表す1めもりは2さつです。4年1組の本の数は4さつで、4年2組の本の数は16さつで、 $16 \div 4 = 4$ なので、ぼうの長さは2倍でも、かりられた本の本の数は4倍だからです。	・4年1組のグラフの本の数を表す1めもりが1さつで、4年2組のグラフの本の数を表す1めもりが2さつだからです。	
正答率	誤答率	無解答率
30.2%	55.1%	14.6%

② 指導法改善に向けて

8(2)は、30年度8(2)と同一の趣旨の設問であり、正答率は、30.2%と不十分である。無解答率は14.6%であり、誤答については、それぞれのグラフの1目盛りが表す数量のみを根拠としているものなどが見られた。要因としては、グラフの1目盛りの大きさを基に数量を的確に読み取る活動や複数のグラフを比較して判断した理由を過不足なく説明する活動などが不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、目的に応じて、差だけでなく、何倍かに着目して考察することができるようにすることが重要である。また、何倍かを求めるには、目盛りの数を数え計算して求めるだけでなく、数量の大きさを読み取り、計算して求めることができるようにすることも大切である。

さらに、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことをグラフのどの部分に着目して読み取った数量なのかを明らかにし、他の人に分かるように伝えることが大切である。例えば、判断した理由を過不足なく表現するために、根拠となる事柄が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているのかについて話し合う活動が考えられる。

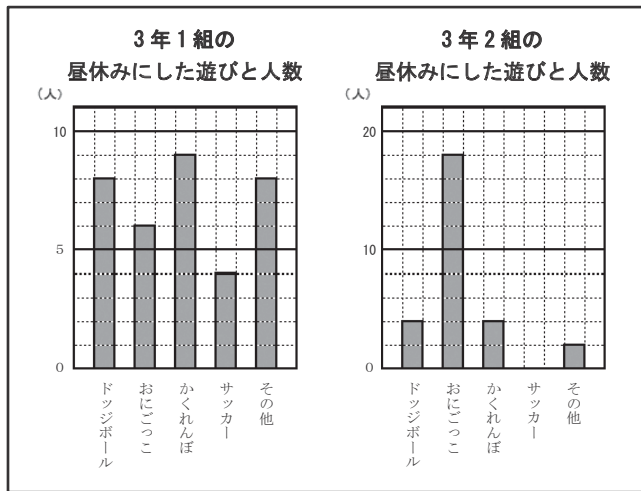
③ 改善事例 第3学年「表とぼうグラフ」

1 指導のねらい

棒グラフを的確に読み取ったり、かいたり、見いだしたことを表現したりできるようにする。

2 具体例

(1) 1目盛りの大きさの違いに着目し、正確な情報を読み取ったり、かいたりする学習活動



1目盛りの大きさを考えて棒の長さを決めることが大切です。同じ人数でも1目盛りの大きさが違えば、棒の長さが違ってきますね。



3年2組でサッカーをした人数は、3年1組より2人多いです。人数に合わせて棒をかきましょう。

2人多いから、1組の4目盛りに2目盛り長くぼうを伸ばして、6目盛りのぼうをかけばいいね。



でも、6目盛りのぼうをかくと10人の目盛りをこえるよ！



3年1組より2人多いと6人になるはずなのに、どうして？



3年2組のグラフは10人で5目盛りしかないから、1目盛りが、1人ではなく2人を表しているね。



じゃあ、6人を表すには、3目盛りのぼうをかけばいいね。



(2) 複数のグラフを比較し、見いだしたことをよりよく表現する活動



ドッジボールをした人数について考えましょう。3年1組でドッジボールをした人数は、3年2組でドッジボールをした人数の何倍ですか。



どの部分からそう考えたのですか。



そうですね。でも、その説明では、棒が表す人数は、なぜ1組が8人で、2組が4人となるのかが、よく分かりません。どんな説明を加えるといいでしょう。

3年1組でドッジボールをした人数は、3年2組でドッジボールをした人数の2倍だと思います。



ぼうが表す人数から考えました。3年1組は8人で、3年2組は4人だから、2倍です。



ぼうが表す人数を説明するときは、何に目を付ければいいのか？



2つのグラフの1目盛りが表す人数と目盛りの数を説明に加えればいいと思います。



3年1組は、1目盛りが1人を表し、8目盛りあるから、ぼうが表すのは 8人です。3年2組は、1目盛りが2人を表し、2目盛りあるから、ぼうが表すのは 4人です。だから、 $4 \times \square = 8$ $8 \div 4 = 2$ 2倍です。



この問題では、棒が表す人数を比べて、何倍かを説明する必要があります。そのため、よりよい説明をするためには、2つのグラフの「1目盛りが表す大きさ」と「ぼうが表す大きさ」をはっきりさせる必要がありますね。また、説明の中に式を入れることで、さらに相手に伝わりやすくなりますね。



【判断した理由を過不足なく表現するために】

このような話し合いの場を大切にすることでなく、話し合いの後、一人一人が説明する場（記述や発表等）を確実に設定し、児童の様子を見取っていく中で、全員に定着させることが大切です。この他にも、判断した理由の誤答例（根拠となる事柄が不足しているもの等）を教師が先に提示し、よりよい表現に洗練させていく方法も考えられます。

小学校 第6学年
「社会」「理科」

県平均正答率	学校正答率
70.4%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

31年度（令和元年度）の平均正答率は70.4%で、30年度より6ポイント上がり、到達状況は基準に到達している。地域学習において、石川県全体の地形や県庁所在地、隣接する県、交通について理解することの正答率は良好であった。しかし、石川県の農業の課題について資料を基に考察したことを適切に表現することや、複数の資料を適切に関連付けて学習問題として表現することについては依然として課題が見られ、指導法の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地域学習】 (県平均正答率 70.5%) (学校正答率 %)

◎：石川県全体の地形や県庁所在地、隣接する県、交通について理解すること〔1(1)①③〕

設問1(1)①③の正答率は90%を超え、良好である。地図帳を使用する学習活動を意図的に取り入れ、地図の見方、活用方法など基礎的な知識・技能の定着に向けた指導が、今後も大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(1)①A	県の自然（手取川）	91.2%	%
1(1)①B	県庁所在地（金沢市）	91.4%	%
1(1)①C	隣接した県名（富山県）	95.1%	%
1(1)③	県の交通（北陸自動車道）	92.2%	%

◇：人々の安全を守るための関係機関の働きを理解し、そこに従事している人々の工夫や努力について、資料を基に考察したことを適切に表現すること〔3(1)(2)(3)〕

設問3の平均正答率は70%を超え、基準に到達している。引き続き、資料から情報を丁寧に読み取り、「なぜそうしているのか」など従事する人々の工夫や努力について考え、表現する活動を通して、消防署や警察署などの関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることを理解できるようにすることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3(1)	火災時の連絡先（119番）	74.8%	%
3(2)①	火災時の協力機関（消防署）	58.3%	%
3(2)②	火災時の協力機関（警察署）	94.6%	%
3(3)A	消防署の勤務の工夫（当番）	72.2%	%
3(3)B	消防署の勤務の工夫（24時間）	73.1%	%

▼：資料を基に考察したことを、適切に表現すること〔1(2), 6(3)〕

設問1(2)については、p22参照。
設問6(3)の正答率は3.0%と不十分である。誤答の大部分は、「レジ袋を使わず、マイバッグを使う」など、プラスチックごみの増加やプラスチックごみの削減について

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(2)	農業の課題（販売農家）	16.5%	%
6(3)	店の取組（ごみを減らす工夫）	3.0%	%

(県) H30：事例1 H29：事例1 (県) H30：4(2) H29：6(3)

触れていないものであった。これらの要因としては、読み取った複数の情報を基に社会的事象を関連付けて考え、相互の関連を捉えて表現する学習活動が依然として不足していることが考えられる。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・ 社会生活についての理解を図り、資料から読み取った情報を関連付けて考察し、相互の関連を表現させること
- ・ 調べたことや考えたことからキーワードを確認し、学習問題に対して適切に表現させること

◇：自然災害の防止の取組について、資料を基に考察したことを、適切に表現すること〔4(3)②〕

設問 4(3)②の正答率は 70% を超え、基準に到達している。

引き続き、地図や統計、写真等の資料を活用したり、関係機関に従事する人に聞き取り調査したり

するなど、日ごろから防災に関する情報などに関心をもたせる学習を充実させることが大切である。また、防災教育について、他教科等も含めて、より一層効果的に防災意識を高めていくように工夫していくことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(3)②	自然災害の防止 (自助と共助)	77.0%	%

(県) H27 : 6(3)

◇：地図帳を活用して、我が国の位置と領土について調べ、適切に情報を読み取ること〔2(2)〕

設問 2(2)の正答率は 70% を超え、基準に到達している。また、設問 2(2)①は、30 年度の類似問題と比べて 14.8 ポイント上回っている。

引き続き、地図帳や地球儀、衛星写真などの資料を使用する学習活動を意図的に取り入れ、我が国は世界のどこに位置しているか、我が国の国土はどのような島々から成り立っているか、我が国の領土はどの範囲かなどの問いを設けて調べたり、調べたことを総合して我が国の国土の特色を考えたりして、表現する学習を充実させることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(2)①	日本と周辺の国 (距離)	76.4%	%
2(2)②	日本と周辺の国 (方位)	78.9%	%

(県) H30 : 2(2) H29 : 2(2) H28 : 2(2)

▼：複数の資料を適切に関連付けて、学習問題として表現すること〔5(5)②〕

設問 5(5)②については、p.24 参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(5)②	学習問題の設定	30.5%	%

(県) H30 : 事例 2 H29 : 事例 2 H28 : 事例 2

(県) H30 : 5(3)③ H29 : 5(5)

- ・資料の見せ方・提示順等を工夫し、気付きや疑問を出し合い、複数の資料の情報を関連付けて、自ら学習課題を設定（表現）する学習を充実させること
- ・生活経験や既習事項を基に予想を立て、見通しをもたせる学習を充実させること

指導法改善のポイント

- 資料から読み取った情報を基に考察し、適切に表現する力を育成すること (→ 事例 1)
- 社会に見られる課題から疑問をもち、自ら学習問題を設定し解決の見通しをもって探究する力を育成すること (→ 事例 2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

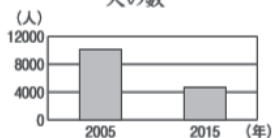
資料から読み取った情報を基に考察し、適切に表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

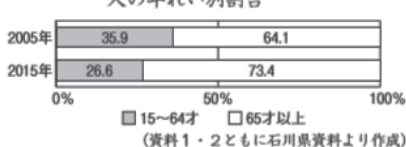
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
1(2)	地域学習	石川県の農業の課題について、資料を基に考察したことを適切に表現することができる。	・社会的な思考・判断・表現 ・観察・資料活用 of 技能

(2) 下線部③について、さくらさんは、石川県が農業を始めたい人を対象とし技術研修会を開きいするなど、農業に関する様々な取り組みを行っていることを知りました。
資料1と資料2をもとに、県がこのような取り組みを行っている目的を書きましよう。

〔資料1〕 主に農業を行っている人の数



〔資料2〕 主に農業を行っている人の年別割合



正答例	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> 主に農業を行っている人の数が減っているのに、その上、65才以上の割合が高くなっているから（15才～64才の割合が低くなっているから）、農業を受けつぐ人を増やすため。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に農業を行っている人の数が減っているのに、65才以上の割合が高くなっているから。（目的が書かれていない） 主に農業を行っている人の数が減っているから。（どちらかのグラフの内容のみを書いている） 	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
16.5% (2.8%)	76.7%	6.8%

② 指導法改善に向けて

誤答としては、「主に農業を行っている人の数が減っているのに、65才以上の割合が高くなっているから」というものが多かった。複数の資料から読み取った情報を関連付けて表現することはできているが、問題に示されている「県がこのような取組を行っている目的」についてまで考えることができていなかった。要因としては、問題文を読み解き、解答として何が求められているのかを十分理解できていないことが考えられる。

以上のことから日頃の学習指導において、本時の学習問題を解決するために、各種の資料を通して情報を集め、それらを活用・整理して、社会的事象の特色や相互の関連、働きや役割など社会的事象の意味を考えていく活動を重視する必要がある。また、終末においては、再度、学習問題に立ち返り、本時の学習を振り返りながら考えを再構築する活動を確実に進めていくことが大切である。その際は、解決すべき問題に対して考えをまとめるために必要な語句を意識できるようキーワードを確認するなど、児童が自分の言葉で適切に表現できるよう指導方法を工夫する必要がある。

③ 改善事例 第3学年「古い道具と昔のくらし」

1 指導のねらい

資料から読み取った情報を基に考察し、適切に表現する力を育成する。

2 具体例

具体例は
2時間扱い

(1) 資料から情報を読み取ることから問題意識を高め、学習問題をつくる。

【資料1 道具調べカード】

<おじいさん・おばあさんが子どものころ>

○名前 洗たく板とたらい

○使い方

1 いどこからポンプでくみ上げた水をたらいに入れる。

2 洗たく物を水によくひたし、よごれたところは石けんをつけて洗たく板の上でごしごしとあらう。

3 水を何回も取りかえて、よくすすぐ。

○くらしのようす

水くみや洗たく物を取りこむのは、子どもの仕事だった。



道具調べカードから、今の洗たくと比べて、どう思ったかな？

手で洗うことや何回も水を取りかえるのは大変だね。



今は、スイッチを押すと自動で洗たく機が洗ってくれるよ。洗たく板で洗たくするのは大変だな。



(実物を提示) でも、今も洗たく板は使われているよ。



洗たく機で洗たくできるのに、どうして今も洗たく板が使われているのか知りたいです。

【学習問題】 <どうして、今も洗たく板が使われているのかな？>

ポイント1: 学習問題の内容を把握できているか確認し、問題解決の見通しをもたせる。



では、今日は今も洗たく板が使われている理由を、洗たく体験とゲストの話を通して考えていきましょう。最後に、今日の学習を通して分かったことを道具調べカードに追記していきます。(◆児童がいつでも確認できるように体験方法を掲示する。)

(2) 洗たく板を使った洗たく体験をしたり、ゲストの話の聞いたりする。

(3) 学習問題のまとめをする。

ポイント2: 資料から読み取った情報と、洗たく体験やゲストの話に関連付けて考察させる。

洗たく板にあるみぞにこすりつけて、よごれを落とすんだ。思ったよりずっとよごれが落ちたよ。



洗たくすると手や腰が痛くなった。たくさん洗たく物がある時や冬だと、もっと大変だし、時間もかかるな。



みぞのない板だときれいに洗たくできるかな？



みぞに石けんのあわがたまっで、きれいになりました。みぞのぎざぎざの向きや形に「くふう」がありました。

ポイント3: 必要な語句を意識させ、学習問題に対して適切に表現させる。



洗たく機でもきれいになるけど、今も洗たく板を使っているのはどうして？



洗たく機でとれなかったよごれが、洗たく板でこするときれいになったよ。

今日のキーワードは何にしますか。

「くふう」がいいと思います。



では、どのような「くふう」があるか分かるように、黒板の言葉も参考にしてまとめましょう。(◆下線を引いたり、文字を囲んだりするなど板書を工夫する。)

【まとめ】 今も洗たく板が使われているのは、洗たく板のみぞには、石けんをためる「くふう」があり、よくよごれを落とすことができるから。

(4) 資料から読み取った情報や体験活動、交流を基に、道具調べカードに学習したことを追記する。

昔の人の「くふう」を書き加えよう。みぞにはきれいになるくふうがあったね。



昔の人たちの苦勞も書き加えよう。

水も洗たく機より使わなかったよ。たらいもくふうかも。

作業が大変な洗たくだから、楽になったらしいなという昔の人の願いがあったかもね。お家の人に聞いて書きたいな。

イ 事例2

社会に見られる課題から疑問をもち、自ら学習問題を設定し解決の見通しをもって探究する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5(5)②	産業と国土	自動車の国内生産台数と現地生産台数の資料を関連付けて、学習問題として適切に表現することができる。	・社会的事象への関心・意欲 ・態度 ・社会的な思考・判断・表現

② あいさんは、資料3と資料4をもとに、学習問題をつくり、予想をノートにまとめました。ノートのEにあてはまる言葉を書きましょう。

【あいさんのノート】

(学習問題) どうして、 E だろう。

(予想) ・日本の自動車が外国で売れるので、外国の人のニーズに合わせて現地で生産するようになったから。
・自動車を外国で生産すれば、日本から運ぶ必要がなくなるため。

正答例	誤答例	
(どうして、) ・自動車の国内生産台数が減っているのに(あまり変わってないのに)、現地生産台数は増えているの (だろう。)	(どうして、) ・自動車の現地生産が増えているの(だろう。)(資料4だけを読み取ったもの) ・国内生産は減っているの(だろう。)(資料3だけを読み取ったもの) ・国内の現地生産は増えているのに国内生産は減っているの(だろう。)(正解と逆)	
正答率(準正答率)	誤答率	無解答率
30.5%(3.4%)	59.9%	9.6%

② 指導法改善に向けて

正答率は30年度の類似問題と比べ、28.1ポイント上回ったが、依然として正答率は30.5%であり、これまで同様不十分である。誤答として、1つの資料から読み取った情報のみを記述したものや、【あいさんのノート】に示されている予想までをしっかりと理解し、それに見合った学習問題を設定できていないものが多かった。要因としては、学習問題を設定する際、資料から読み取った情報を関連させ、自ら学習問題を設定(表現)する活動、さらには学習問題について確実に予想させたり、問題解決への見通しを立てたりする経験が依然として不足していると考えられる。

以上のことから、日常の学習において、資料から読み取った情報を基に気付いたことや疑問に思ったことを発表し、情報を関連付けて自ら学習問題を設定していく活動を継続して行っていく必要がある。また、学習問題に対し、生活経験や既習事項を基に予想させたり調べる視点を明確にしたりして、見通しをもたせる学習ができるように授業改善していく必要がある。

③ 改善事例 第5学年「米づくりのさかんな地域」

1 指導のねらい

社会に見られる課題から疑問をもち、自ら学習問題を設定し解決の見通しをもって探究する力を育成すること。

2 具体例

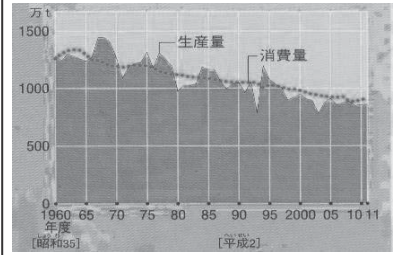
(1) 米の生産量と消費量の変化と農業で働く人の変化の資料を関連付けて話し合う。

ポイント1：資料の読み取り方を確実に習得させ、気付いた点や疑問点を話し合わせる学習を充実させる。



2つの資料の表題や縦・横軸の単位、年代、出典は何でしょう。そして、量の違いや変化の様子を読み取り、気付いたことや疑問に思ったことを話し合しましょう。

【資料1】米の生産量と消費量の変化



米の生産量は、年々減ってきています。1960年代と比べて2011年は約3分の2になってしまったよ。これからどうなるのだろう。

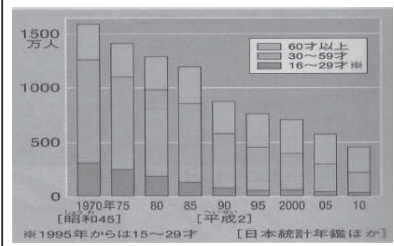


米を食べる人が少なくなってきたから、米の生産量も減ってきたのではないかな。このままでは米が食べられなくなってしまうのでは。



消費量も減ってきているね。1960年と比べて、2011年は約400万トンも減ってるよ。

【資料2】農業で働く人数の変化



農業で働く人も減ってきているよ。一番大きく減少したのは、1985年から1990年の間で、約400万人減ったよ。



農業で働く若い人たちがとても少なくなってきたよ。このままでは米を作る人がいなくなるかもね。



みんなの考えでは、将来、米が生産されず食べられなくなりそうですね。「そうはならないかも」と考えることができる気付きや疑問がないか、今度は2つの資料を比べたりつなげたりして考えてみよう。

◆視点を明確にして読み取らせること

<読み取らせるポイント>

- ・表題、グラフの種類
- ・縦・横軸の単位、年代、出典
- ・一番大きい、小さい
- ・変化の様子、量の違い (広い視野で見て、差や倍)
- ・理由やつながり、比較
- ・これからどうなるのか?



グラフをよく見ると、米の生産量は、2005年以降あまり変化がないね。米の生産量の減少は止まったのかな。



2005年から2010年にかけて農業で働く人数が減っているのに、米の生産量が減っていないのは不思議だね。米の生産量が減らないように何か取り組んでいるのかな。

【学習問題】<2005年以降、農業で働く人数が減っているのに、米の生産量がほとんど変わらないのはどうしてか。>

(2) 学習問題に対する予想を話し合う。

ポイント2：生活経験や既習事項を基に予想を立てさせ、調べる視点を明確にする。



農業体験やセミナーを開いて、技術を伝えているのかな。おいしいお米を作って売れるようになったのかな。

おいしい米を作る取り組み

協力して効率良く作ればいいのではないかな。

効率よく共同作業する取り組み



米を使ったパンがあると聞いたことがあるよ。消費量が増えそうだ。

米の消費量を増やす取り組み

◆児童が問題解決の見通しをもって、協働的に追究できる学習過程を工夫すること

県平均正答率	学校正答率
63.9%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

31年度（令和元年度）の平均正答率は63.9%で、到達状況は十分とはいえない。理科で学んだ自然の事物・現象の性質や働き、規則性などを日常生活に関連付けて考察する問題についてはやや改善が見られる。しかし、経年で出題している太陽や影の位置の変化と方位については、依然として課題が見られた。また、自然の規則性などを理科用語を正しく使って表現することについても課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【物質・エネルギー（エネルギー）】 (県平均正答率 70.1%) (学校正答率 %)

- ：電池の向きを変えるとモーターの回り方が変わることを理解すること〔3(2)①〕
- ▼：モーターの回る向きを乾電池のつなぎ方や回路を流れる電流の向きと関係付けて説明すること〔3(2)②〕

設問3(2)①については、概ね良好である。興味関心を高めることや効率的に学習できる利点から実験キットを使い、実験を行っていることが、実感を伴った理解につながったと考えられる。ただ、実験キットを使った場合、電気の通り道をイメージしにくいという欠点があるため、乾電池と導線、モーター（豆電球）のみを使い、回路を意識できる活動も取り入れる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3(2)①	乾電池と電流の関係	84.6%	%
3(2)②	乾電池、電流、モーターの回る向きの関係	41.9%	%

(国) H30：3(1) (県) H21：4(2)

設問3(2)②については、p.28参照。指導に当たっては、乾電池の向きを変えるとモーターの向きが変わることを「電流」という言葉を使って予想させ、実験によって確かめられるようにする。モーターの向きが変わるという現象を「電流の向き」と関係付けて考えられるようにすることが必要である。

【物質・エネルギー（粒子）】 (県平均正答率 57.7%) (学校正答率 %)

- ▼：閉じ込めた空気や水を押したときの現象を、それぞれの性質と関係付けて考えること〔2(2)〕

設問2(2)については、不十分である。設問2(1)のように、注射器の中に空気だけが入っている場合や水だけが入っている実験の結果から、空気や水それぞれの性質を考察する経験は積んでいる。しかし、空気と水を合わせた場合は空気、水それぞれの性質を踏まえて考察しなければいけないため、戸惑ったと考えられる。そのため、次のような指導の充実が求められる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(2)	閉じ込めた空気と水の体積変化	30.1%	%

(県) H22：2(1)

- ・閉じ込めた空気や水を押したときの体積変化を、空気や水の性質と関係付けて説明させる指導をすること
- ・既習の知識を活用して、学習した内容と異なる状況や場面を説明させる場を設定すること

◇：物が水に溶ける量について、グラフから水の温度と関係付けて考えること〔5(3)〕

設問5(3)については、基準に到達している。グラフから、水の温度による溶ける量の限度について読み取れていることが窺える。今後、水の温度を上げたときの「温度変化」と溶かす物の「溶ける量」を関係付けて表現させる活動の充実が求められる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(3)	溶ける量と温度の関係【分析】	71.9%	%

(県) H23：2(1) H28：6(3)

【生命・地球（生命）】**（県平均正答率 73.0%）（学校正答率 %）****▽：目的に応じて、調べる条件と同じにする条件を制御し、適切でない点を指摘すること〔6(2)〕**

設問 6(2)については、十分とはいえない。p.30 参照。指導に当たっては、構想した実験方法が適切かどうか、変える条件は 1 つだけにな

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6(2)	条件制御【改善】	63.5%	%

（全）H24：3(4) H27：1(1)（県）H21：7(1)(2)(3)（P）「植物の発芽」

っているか、残りの条件はそろっているかに注目して実験方法を見直し、自分たちの考えが妥当であるか、対話により修正していく活動を取り入れることが必要である。

▼：植物は、種子の中のでんぷんを使って発芽することを説明すること〔6(4)〕

設問 6(4)は、29 年度の短答式から記述式にした問題である。種子の中に含まれるでんぷんが、何に使われるのかの理解が依然として不十分である。実験前に、でんぷんの量と発芽や成長を関係付けて予想や仮説を立てておくことが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6(4)	種子に含まれるでんぷんの働き	49.1%	%

（県）H26：1(3) H29：2(2)**【生命・地球（地球）】****（県平均正答率 52.2%）（学校正答率 %）****▽：時間の変化によって、地面にできる影の位置がどのように変化するかを考えること〔4(3)〕**

設問 4(3)については、時間の変化により太陽の動きと影がどのように動くかを、関係付けて考えることが十分とはいえない。観察結果と日常の場面をつなげられていないことが要因として考えられる。そのため、次のような活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(3)	時間による太陽の動きと影の変化【適用】	67.1%	%

（全）H24：4(3)**（県）H25：8(1)(2) H26：8(1) H28：2(1) H29：4(2)**

- ・観察結果を基に、時間の変化によって、太陽や影がどの方向に動いていくか考えさせること
- ・校舎や大きな木の影も実験と同じように動いていることを観察させるなど日常生活に適用させること

▼：1日の気温の変化の仕方は天気によって違いがあることを理解すること〔7(3)〕

気温と天気の関係についての理解は依然として不十分である。要因として、児童の測定の結果から「晴れの日には気温が高く、くもりや雨の日には気温が低い」という捉えだけで終わることが考えられるため、気温の変化という視点で晴れの日やくもりの日の特徴について捉えさせることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7(3)	1日の気温の変化と天気の関係	45.0%	%

（全）H24：4(5)（県）H28：3(2) H29：5(1)（P）「天気の様子」**指導法改善のポイント**

- 理科で学んだ自然の事物・現象の性質や働き、規則性などを、理科学用語を正しく使って表現する学習活動を充実すること（→ 事例 1）
- 実験結果の見通しをもって解決の方向性を構想したり、より妥当な考えに改善したりする学習活動を充実すること（→ 事例 2）

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1
理科で学んだ自然の事物・現象の性質や働き，規則性などを，理科用語を正しく使って表現する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
3(2)	物質・エネルギー (エネルギー)	モーターの回る向きを乾電池のつなぎ方や回路を流れる電流の向きと関係付けて説明することができること。	科学的な思考・表現

3 こうたさんとかおりさんは，豆電球やモーターを使って，電気のはたらきについて調べました。次の問いに答えましょう。

(2) 2人は，モーターで走る車を，かん電池2個を使って作りました。右の【かん電池1個の車】と進む向きが反対の車を，次のア～エの中から1つ選び，その記号を書きましょう。

また，進む向きが反対になる理由を，「かん電池」，「電流」，「モーター」という言葉を使って書きましょう。

ア

イ

ウ

エ

【かん電池1個の車】

モーター

正答例 (準正答例)	誤答例	
(2)① エ (2)② かん電池の向きが反対になると電流の向きも反対になり，モーターの回る向きも反対になるから	②・かん電池が反対になると，モーターの回る向きも反対になるから。 ・かん電池が反対になると，電流も反対になり，モーターも反対になるから。	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
(2)① 84.6%	14.6%	0.8%
(2)② 41.9% (26.3%)	53.8%	4.3%

② 指導法改善に向けて

結果から，モーターの回る向きと乾電池の向きとを関係付けて考えることは概ねできている。しかし，その現象を「電流の向き」と関係付けて説明することができていない。「乾電池の向きが反対になるとモーターの回る向きが反対になる」というのは，現象の説明である。「乾電池の向きが反対になると，電流の向きも反対になり，モーターの回る向きも反対になる」と電流と関係付けて現象の理由を説明することが大切である。

このことから，乾電池につないだ物の様子と電流の大きさや向きを関係付けて調べさせ，考察させる指導の充実が求められる。

指導に当たっては，モーターの回る向きや速さが変わる理由を，既習や生活経験を基に予想させることや，目に見えない電流を矢印等で可視化し，考えを共有，比較できるように工夫することが大切である。また，現象を適切に説明しているかを検討し，見直す活動を充実させるため，曖昧な表現への問い返しや考察に必要なキーワードを黒板に位置付けておくことも必要である。

③ 改善事例 第4学年「電流の働き」

1 指導のねらい

電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子との関係について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するとともに、乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、モーターの回り方が変わることを捉えることができるようにする。

2 具体例

課題 <モーターの回る向きは、何によって変わるのだろうか。>

予想



C: 乾電池の向きを変えると、モーターの回る向きは変わると思う。

ポイント①

予想で、乾電池の向きを変えるとモーターの回る向きが変わる理由を引き出し、板書しておく。



ポイント②

乾電池の向きと、モーターの回る向き、理由をマトリクス表に表し、現象（モーターの回る向き）と理由（電流の向き）を関係付けられるようにする。



C: 乾電池の向きを変えて、モーターの回る向きを調べよう。



C: やっぱりモーターの回る向きが変わったよ。

現象	乾電池の向き		
	モーターの回る向き		

T: 乾電池の向きを変えるとモーターの回る向きが変わった理由は何かな？



C: 乾電池の向きを変えると、電流の向きも反対になるからだと思うよ。



C: 検流計で調べてみよう。



C: 乾電池の向きを反対にすると電流の向きも反対になった。

理由	予想	電流の向きが反対になるから。	
	予想を確かめるための実験		

検流計の針は反対に動いた。

ポイント③

課題に対する答えに、マトリクスに示されている言葉を使って、理由を追加させる。

本時のまとめ (例)

△: モーターの回る向きは、乾電池の向きによって変わる。(現象のみ)

◎: モーターの回る向きは、乾電池の向きによって変わる。理由は、電流の向きが反対になるから。(現象+理由)

他学年の事例 第3学年「ゴムの力の働き」

課題 <ゴムののびを変えると車の進むきよりはどうなるか>

現象	のばした長さ	5 cm	10 cm
	進んだきより	2 m 50 cm	4 m 10 cm
理由	ものを動かすはたらき	小さい	大きい

まとめ ゴムを長くのばすと、車の進んだきよりは長くなる。理由は、ものを動かすはたらきが大きくなるから。

ポイント④

現象（ゴムののばした長さ、車の進んだきより）と理由（ものを動かすはたらき）を関係付けて表現させる。

イ 事例2

実験結果の見通しをもって解決の方向性を構想したり、より妥当な考えに改善したりする学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6(2)	生命・地球 (生命)	目的に応じて、調べる条件と同じにする条件を制御して考え、適切でない点を指摘することができる。	・自然事象への 関心・意欲・態度 ・観察・実験の技能

6 こうたさんとかおりさんは、インゲンマメの発芽について調べようと思います。それぞれ予想を立て、予想を確かめるための実験を、下のア～オの条件で理科室の日当たりの良い場所で行います。あとの問いに答えましょう。

発芽するには、水が必要だと思うよ。種まきをしたときには、必ず水をあげていたよ。



種のふくろに、まく時期が書かれていたから、発芽するには温度が関係していると思う。



ア イ ウ エ オ

(・かわいただし綿
・水をあたえない) (・ひりょうを
ふくまない土
・冷ぞう庫に入れる) (・ひりょうを
ふくまない土) (・ひりょうを
ふくまない土
・箱でおおう) (・ひりょうを
ふくまない土
・水をあたえない)

(2) かおりさんは、自分の予想を確かめるために、上のイとウの方法で比べようと思いました。すると、こうたさんが、次のように言いました。こうたさんの考えの()にあてはまる言葉を書きましょう。

イとウを比べると、温度と()の条件が変わり、どちらの条件が関係しているかわからなくなってしまうね。



正答例 (準正答例)	誤答例	
日光・光	水, 空気	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
63.5% (0.2%)	34.0%	2.5%

② 指導法改善に向けて

この設問の正答率は、63.5%で十分とはいえない。設問6(2)では、発芽と温度の関係を調べるために、調べる条件と同じにする条件を判断し、適切でない点を指摘することを求めた問題である。

課題を解決するための実験方法について、多様な視点から自分や他者の考えを見直し、より妥当な考えに改善する力を育てていく必要がある。

具体的には「それらの観察実験からどのような結果が得られるか」、「その結果が得られれば自分たちの問題を解決できるのか」など見通しをもたせ、仮説や予想、観察実験の方法、結果をそれぞれ関連させて考え、対話を通して、より妥当性の高い実験方法に改善させる場面を設定する必要がある。またその際、理由を問うことで、条件制御についての考え方を引き出し、一つの条件だけを変えること、残りの条件はすべてそろえるということにも注目させることが必要である。

③ 改善事例 第5学年「植物の発芽と成長」

1 指導のねらい

既習の内容や生活経験を基に、問題に対して根拠のある仮説や予想をもち、実験結果を見通しながら、実験を計画し、対話的活動を通して、より妥当性の高い実験方法に改善することができるようにする。

2 具体例

課題 <種子が発芽するためには、何が必要なのだろうか>

★ 仮説…適度な温度が発芽には必要だろう (生活経験や体験を根拠に仮説を立てる。)

対話の場面 仮説を確かめるために根拠と見通しをもって実験計画を立てさせる。その際、「調べる条件は何か」、「変える条件は1つになっているか」「変えない条件はそろっているか」「結果の見通しから課題が解決できるか」等の視点で見直し、必要であれば改善させる。

ポイント 見通しをもって実験計画を立てさせ、『自分たちの考えた実験方法が妥当か』他の方法と比べながら見直す活動をする。



私の班では、調べる条件は「温度」なので、温度の条件だけを変えるよ。 同じものを2つ作って一つを冷蔵庫に入れて、もう一つはそのまま置くよ。



冷蔵庫に入れた方は温度が低いので発芽はしないと思う。もう一つの方は、発芽すると思うよ。この結果になったら、発芽には温度が必要ってわかるよね。



僕の班も調べる条件は「温度」だよ。でも、冷蔵庫に入れない方は箱をかぶせて置くことにしたよ。やり方が違うね。



えっ、どうして？ なぜ箱をかぶせるの？



変える条件は温度だね。変えない条件はそろっているかな。



だって、冷蔵庫は閉めると、冷蔵庫の中は暗いんだよ。



なるほど。明るさ（日光）の条件が違ってくるんだ。だから箱などをかぶせて暗くしてあげないと、明るさの条件を同じにすることができなくなってしまいうんだ。

実験の方法を話し合って、より妥当性の高い検証方法に改善していくことが大切です。

まとめ 種子が発芽するためには、適度な温度が必要である。

こんなやりとりをさせていませんか？



種子が発芽するためには、日光が必要な条件かを調べたいけど、棚の中に入れればいいのか、箱の中に入れればいいのか、どっちがいいかな。

うーん。棚の中に入れた方が日光が届きにくいと思うから、棚の中の方がいいかもね。



でも、箱を何重にも重ねれば、もっと暗くできるかも。

このような話し合いをしていたら、教師が問い返し、方向転換をしましょう。調べる条件は日光なので、日光の当たる明るい場所と日光の当たらない暗い場所でも実験をすることが必要で、棚の中でも箱の中でもどちらでもよいことに気付かせることが大切です。

◎ 今回の学びを生かす場 5年【振り子】：一往復する時間の実験（ふりこの長さ、おもりの重さ、振れ幅）
6年【動物のからだのはたらき】：だ液の働きを調べる実験（だ液ありとだ液なし）

中学校 第3学年
「社会」「理科」

県平均正答率	学校正答率
58.6%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

31年度(令和元年度)の平均正答率は58.6%で、30年度に比べ4.1ポイント下がり、到達状況は不十分である。地理的事象に関する基礎的な知識を理解することは概ね良好であるが、資料(グラフ・文献資料等)から読み取った複数の情報を関連付けて、地理的事象の課題や理由を考察し表現することや、歴史的事象の意義などを説明することは、依然として課題が見られ、指導法の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野】 (県平均正答率 69.5%) (学校正答率 %)

○：アフリカの国境の決まり方について、基礎的な知識を理解すること〔1(4)①〕

設問1(4)①は、25年度(記述式)と比べ57.0ポイント上回り、概ね良好である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(4)①	アフリカの国境の決まり方	85.8%	%

引き続き、世界の諸地域の学習においては、地球儀、世界地図、

(県) H25：1(2)③

地図帳、衛星写真などを意図的・計画的に活用し、地誌的な知識や概念の定着の充実を図ることが大切である。

◇：野菜生産の特色を、複数の資料から読み取ったことを基に考察すること〔4(4)④〕

設問4(4)④は、27年度の類似問題(記述式)と比べ34.7ポイント上回り、基準に到達している。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(4)④	日本の産業の特色(愛知県の農業)	79.4%	%

引き続き、資料から読み取った社会的事象の意味や意義、特色や

(県) H27：4(6)

相互の関連等を考察したり、話し合わせたりする学習が求められる。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・資料から読み取った複数の情報を、比較したり関連付けたりして考察させること
- ・考察したことを全体場で共有したり、キーワード等に注目して再考察させること
- ・話し合ったことを学習課題に対するまとめとして個々に表現させること

▼：アフリカの公用語選定の理由を、資料を基に読み取り、適切に表現すること〔1(4)②〕

設問1(4)②については、p.36参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(4)②	アフリカの公用語の歴史	5.9%	%

- ・地理的事象の背景や要因を、地域の環境条件や他地域との結び付き等に注目させ、考察させること
- ・資料から読み取った情報を基に、必要な語句を明確にし、何をどうまとめるのかを意識させて表現させること

【歴史的分野】

(県平均正答率 49.5%) (学校正答率

%)

◇：近代の基礎・基本となる歴史的事象について理解すること [5(1)①]

設問 5(1)①は、明治時代における日本の近代化について問う問題である。正答率は 78.7%であり、

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(1)①	歴史上の事象(廃藩置県)	78.7%	%

基準に到達している。引き続き、単元を通した問題解決的な学習の充実を図り、複数の資料の共通点に着目させたり、歴史的事象について適切に表現したりする学習等を意図的に単元に位置付けることが大切である。

▼：古代の基礎・基本となる歴史的事象について理解すること [2(1)(3)]

設問 2(1)(3)は、古代の日本の国づくりにおいて、歴史上の人物や歴史的事象を問う問題である。正答率はいずれも 40%を下回り、不十分である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(1)	歴史上の人物(阿倍仲麻呂)	33.9%	%
2(3)	歴史上の事象(大宝律令)	38.7%	%

指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・歴史的事象やそれに関連する歴史上の人物とその時代の特色との関連に着目させ、歴史的事象の意義や歴史上の人物の役割などについて、適切に表現する学習を充実させること
- ・我が国の政治や文化等の移り変わりについて、諸外国との相互の関わりを視点に調べたり考察したりする学習を充実させること

▼：立憲制国家の成立について、複数の資料から読み取ったことを基に考察すること**[5(3)③]**

設問 5(3)③は、p.38 参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(3)③	日本の近代化(選挙の意義)	17.2%	%

- ・複数の資料からの情報を基に主体的に課題(問い)を見だし、その課題(問い)について結果を予想したり、見通しをもったりする学習を充実させること
- ・問題解決のために必要な資料から読み取った事実や情報を比較・関連付けながら、多面的・多角的に考察することで、歴史的な事象の背景やそれらの意義等について適切にまとめ、表現する学習を充実させること。

指導法改善のポイント

- 環境条件や歴史的背景等に着目して地理的事象を考察し、考察したことを適切に表現する力を育成すること (→ 事例1)
- 資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察し、考察したことを適切に表現する力を育成すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 3

ア 事例1

環境条件や歴史的背景等に着目して地理的事象を考察し、考察したことを適切に表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

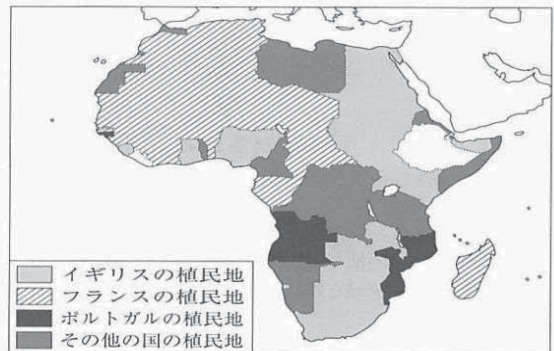
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
1(4)②	地理的分野	資料を基に、アフリカの公用語選定の理由を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な思考・判断・表現 資料活用の技能

(4) 資料1と資料2は、現在のアフリカの国境と20世紀初頭のアフリカの境界線を表している。あとの①、②の問いに答えなさい。

〔資料1〕 現在のアフリカの国境



〔資料2〕 20世紀初頭のアフリカの境界線



② 資料3は、資料1に示された国のおもな公用語をまとめたものである。資料3に示された4カ国では、それぞれ異なる公用語が使用されている。その理由として考えられることを、資料2をもとに書きなさい。

〔資料3〕

国名	おもな公用語
コートジボワール	フランス語
ナイジェリア	英語
アンゴラ	ポルトガル語
エチオピア	アムハラ語(アフリカの言語)

正答例	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> エチオピアは、植民地支配を受けていなかったため、もともと使っていたアフリカの言語がおもな公用語になった。他の3国は、植民地支配を受けていたので、支配していた国の言語がおもな公用語になったから。 	<ul style="list-style-type: none"> アフリカの4か国が、ヨーロッパの国々に植民地にされていたから。 植民地支配されていた国の言葉を公用語にしたから。 	
<p>正答率 (準正答率)</p> <p>5.9% (1.8%)</p>	<p>誤答率</p> <p>90.0%</p>	<p>無解答率</p> <p>4.1%</p>

② 指導法改善に向けて

この設問は、アフリカの4か国で使用されている公用語が異なる理由について、歴史的背景を示す資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察し、適切に表現することを問う問題である。

正答率は5.9%であり不十分である。設問で求められている内容が不足している誤答が多いことや無解答率が4.1%であることから、複数の資料を読み取って考察する力は向上していると考えられる。しかし、考察したことを適切に表現する力が不足していると考えられる。

指導に当たっては、日常の授業において、用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識を習得させることのみならず、生徒が社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察・構想し、課題を追究したり解決したりする活動の工夫などが求められる。

③ 改善事例 第1学年「北アメリカ州」

1 指導のねらい

環境条件や歴史的背景等に注目して地理的事象を考察し、考察したことを適切に表現する力を育成する。

2 具体例 **学習課題** <広大な国土のアメリカでは、農産物の生産にどのような特徴があるのか>

(1) 複数の資料から読み取ったことを考察する学習



アメリカの2つの資料から、どんなことが分かるかな？グループで考えてみましょう！

【資料1】アメリカの年間降水量

アメリカの年間降水量の主題図
・ 帝国書院「中学校社会科地図」
61 ページ参照

【資料2】アメリカの農業地域

アメリカの農業地域の主題図
・ 帝国書院「中学校社会科地図」
62 ページ参照



西経 100 度より東は年間降水量が 500mm 以上ね。



西は牧場で牛を育てているようだね。

(2) 複数の資料から読み取った情報を比較・関連付け、既習の知識を生かし、解釈する学習



年間降水量が 500mm 以上ないと牧草以外の農作物は育てることが難しくそうです。



東の年間降水量の多い地域ではさまざまな農産物が栽培されているようです。



年間降水量と農産物の生産には関連性があるね。具体的に言うと？

◆ 問い返して、関連させるポイントをおさえる



西経 100 度を境に西と東では、年間降水量や農業生産に大きな特徴が見られます。



(3) 地域的特色を既習の知識と関連付け、多面的・多角的に考察する学習



西経 100 度より東の農業地域に注目してみよう。なぜ、同じ作物の栽培地域が東西に広がっているのかな？

◆ 環境条件に着目できるように、発問を工夫する



東西に広がる同緯度の地域では、気温や気候条件に合った作物が栽培されているのだと思う。



綿花やとうもろこし、大豆や酪農まで東西に広がっているね。



いろいろと気が付きましたね。まとめを書いてみましょう。キーワードは何ですか？2つの資料を関連付けて何が分かりましたか？

◆ キーワードとなる必要な語句や着目させる視点をおさえる



地域の気温や気候条件に適していることだから、キーワードは「**適地適作**」がいいと思います。



西経 100 度より西では、年間降水量が少なく放牧が中心に行われている。年間降水量の多い東側では、それぞれの地域の気温や気候条件に適した様々な種類の農産物が生産されている。

【まとめ】アメリカでは年間降水量、気温や気候条件が異なることを利用して、地域の環境に適した農作物を生産する**適地適作**が行われるといった特徴が見られる。

イ 事例2

資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察し、考察したことを適切に表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5 (3) ③	歴史的分野	立憲制国家の成立について、複数の資料から読み取ったことを基に考察することができる。	・社会的な思考・判断・表現 ・資料活用 の技能

5 さとしさんたちのクラスでは、「明治時代における日本の近代化」について発表するために、班ごとにテーマを設定して調べた。

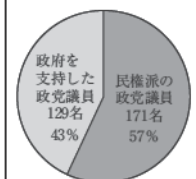
(3) 3班は、「国会の開設」について調べ、日本で議会政治が始まったことがわかった。あとの①～③の問いに答えなさい。

〔資料3〕 みんせん ぎいん 民撰議院設立の建白書

現在の政権がどこにあるかを考えてみると、天皇にも人民にもない。ただ、一部の役人が独占している。…政府が出す命令は多く、その命令もしきりに変わり政治や刑罰は感情によって行われている。…こうしたやり方を変えなければ、おそらく国家は崩壊するだろう。…このゆきづまりを救う道は、天下の人民の言論の道をひらくことだけである。それは民撰議院を設立するしかない。

③ 1890年に行われた第1回衆議院議員総選挙は、国会の開設に向けて大きな意義のある選挙であった。資料3と資料4をもとに、この選挙の意義を書きなさい。

〔資料4〕 第1回帝国議会の構成



(「日本史資料集成」より作成)

正答例	誤答例	
・民権派の政党の議員が半数以上の議席を獲得し、世論が政治に反映する道が開かれた。	・民権派の政党の議員が半数以上の議席を獲得した。	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
17.2% (2.1%)	59.1%	23.7%

② 指導法改善に向けて

この設問は、新学習指導要領の「立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解できるようにする。」を踏まえた問いである。資料4から読み取ることができることのみを解答し、国会開設に向けた第1回衆議院議員総選挙の歴史的意義について適切に捉えきれていない誤答が多く見られた。一つの歴史的な事象について複数の資料を基に多面的・多角的に考察し、その歴史的な事象の意義について考察する学習活動が不十分であることが要因の一つと考えられる。

指導に当たっては、次のような計画的・意図的な指導が大切である。

- ・歴史的な事象についての資料を読み取ることで、生徒が主体的に見いだした問いを基に、単元や1時間の授業の学習課題を生徒と共有すること
- ・歴史的な事象がその後の歴史にどのような影響を及ぼしたのかなどに気付かせ、その歴史的な事象の意義や現代社会とのつながり等について考察させること

③ 改善事例 第2学年「明治維新の三大改革」

1 指導のねらい

資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察し、考察したことを適切に表現する力を育成する。

2 指導例

明治維新の三大改革の授業を考えています。資料から読み取った情報を基に、社会的事象を多面的・多角的に考察させるために大事なことを教えてください。



若手先生

(1) 複数の資料から問いを見だし、学習課題を設定する活動



ベテラン先生

調べたり考察したりするポイントを、生徒に明確に示す必要がありますね。ここではどのような資料が考えられますか。

「徴兵告諭」

小学校と寺子屋との比較

「地券」

これらの資料が考えられます。



若手先生



ベテラン先生

生徒の気付きや疑問から、どのような学習課題が考えられますか。

◆生徒自ら「課題(問い)」をもつことができるために、資料の提示方法など、導入を工夫すること

<なぜ、明治政府はこの改革に取り組んだのか>や<明治政府は改革を通してどのような国づくりを目指したのか>といった学習課題が考えられます。



若手先生

(2) 問題解決に向けて、多面的・多角的に考察する活動

改革の目的や結果などについて考察させることが大切です。

多面的・多角的に考察させるために大切なことは何ですか。



ベテラン先生

明治政府や国民、それぞれの立場に立って考察させることも有効です。その他にも下のような資料が活用できますね。

明治政府が目指した国づくりが、国民の生活にどのような影響を与えたのかという視点も大切ですね。



若手先生

【活用が考えられる資料例】

・おもな免除規定 ・就学率の変化 ・政府の収入の変化 ・おもな農民一揆 など



ベテラン先生

「改革後、日本はどのような国になったのかな」「これらの改革の目的はそれぞれ違うのかな」等、再度本時の学習課題に立ち返り、これらの改革の関連性に着目させることが大事ですね。

◆複数の視点や立場で考察したことを基に、歴史的事象の意義や影響などを考察し表現する活動を工夫すること

<多面的・多角的に考察した過程や結果を適切に表現させるために>

- 単元や本時における学びを再構築する場面を、単元や1時間の授業に位置付ける。
- 歴史的事象について、複数の資料や様々な立場から考察させたり、それらの類似や差異に着目させたりしながら、歴史的事象の意味や意義についてまとめられるようにする。
- 単元や本時の評価規準を生徒と共有し、自己評価を次時の学びに生かせるようにする。

県平均正答率	学校正答率
54.7%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

31年度（令和元年度）の平均正答率は54.7%で、29年度に比べ5.5ポイント上がったものの、到達状況は不十分である。領域別では、物理的領域の平均正答率が46.8%と低い。交流の性質を説明する問題や電流と磁界の変化を関連付けて考える問題や、分析・解釈に関わる活用力を問う問題で課題が見られることなどが要因である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【第1分野 物理的領域】 (県平均正答率 46.8%) (学校正答率 %)

▼条件を制御し、実験を構想すること〔2(3)〕

設問2(3)については、p.42参照。指導に当たっては、実験を構想する場で「変える条件」と「変えない条件」を整理したり、実験結果を予想することで何が明確になるかを話し合ったりする学習を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(3)	実験の条件制御【構想】	29.8%	%

(県) H29：事例1 (県) H29：1(3) (全) H30：4(2)

▼電流の変化と、コイルの中の磁界の変化について関連付けて考えること〔7(4)〕

電流の変化とコイルの中の磁界の変化について関連付けて考えることは不十分である。誘導電流が生じる操作条件とその際のコイルの磁界の変化について追究する学習活動が十分に行われていないことが考えられる。次のようなことを充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7(4)	電流がつくる磁界と電磁誘導【適用】	15.3%	%

(全) H27：TYPEⅢ 5(2) (全) H27：5(2)

・実験操作により変化する条件、その変化によってどんな現象が生じるのかを関連付けて考察すること

【第1分野 化学的領域】 (県平均正答率 50.9%) (学校正答率 %)

▽化学変化をモデルで表現すること〔3(2)〕

化学変化を粒子モデルで表現する経年的に出題されている問題である。モデルを作る手順を示すことで正答率は上がっているが、十分とはいえない。化学変化をモデルで表現する学習活動が十分行われていないと考えられる。今後は、次のような指導の充実が求められる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3(2)	水の分解のモデル【適用】	61.2%	%

(県) H29：2(1) H28：3(2) H26：2(4) (全) H30：4(3)

・表現したモデルを、原子・分子の概念を根拠に、化学反応の前後で原子の種類と数を等しくする必要性に気付くこと

▼溶解度を基に、水溶液の温度を下げたときの溶質の質量の変化を考えること〔6(2)〕

設問6(2)については、p.44参照。指導に当たっては、課題追究のための実験結果をグラフで表現し、目的に応じて分析・解釈して考察することや実験結果（現象）やグラフの変化を粒子モデルと関連付けて考えるような活動を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6(2)	溶解度曲線と再結晶【分析・解釈】	26.0%	%

(県) H23：事例1 (県) H26：4(4)

【第2分野 生物学的領域】

(県平均正答率 65.7%) (学校正答率

%)

◇：血液と細胞との間での物質のやり取りを理解すること〔5(3)〕

血液は循環して、細胞に酸素や栄養分を渡し、二酸化炭素や不要物を受け取っていること、理解は、基準に達している。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(3)	血液と細胞との間の物質のやり取り	70.5%	%

さらに、血液における色々な物質の運搬だけでなく、各器官の働きと関連付けて総合的に理解できるような学習活動が求められる。

▼：実験の条件と結果を関係付けて考えること〔1(2)〕

対照実験の条件と結果を関連付けて考えることは不十分である。対照実験において何も入っていない試験管を準備した意図が明確になっていない。実験を構想する学

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(2)	実験の条件と結果の関係【分析・解釈】	30.8%	%

習活動において条件の吟味と共に意図を話し合う活動が十分行われていないと考えられる。

(県) H22：事例1 (県) H23：6(1) (全) H22：5(2)

今後は、次のような学習活動を充実させる必要がある。

- ・実験計画の際、対照実験の必要性を感じられるような話し合いを通して、実験の条件を考えること
- ・実験の条件と仮説を照らし合わせて結果を予想すること

【第2分野 地学的領域】

(県平均正答率 54.8%) (学校正答率

%)

◇：大地に力がはたらいてできる地層のずれが、断層であることを理解すること〔8(3)〕

大地に力がはたらいてできる地層のずれが断層であること、理解は、基準に達している。単なる用語としての学習だけでなく、大地の変動と関連させて説明する活動や、身近に見られる断層を紹介する活動等を通して、さらなる定着を図る必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8(3)	断層	72.0%	%

大地の変動と関連させて説明する活動や、身近に見られる断層を紹介する活動等を通して、さらなる定着を図る必要がある。

▼：気象要素の変化から、寒冷前線の通過を見いだすこと〔4(2)〕

気象要素の変化から、寒冷前線の通過を見いだすことは、不十分である。前線付近の空気の性質や低気圧付近での風向の理解が定着していないと考えられる。今後は、次のような指導の充実が必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(2)気温	気象要素の変化と寒冷前線	55.2%	%
4(2)風向		50.0%	%

- ・前線付近の空気の性質や低気圧付近での風向を基に、天気図上での各地の気象要素を考える活動や天気図を見て自分が住んでいる地域での気象予報を考える活動を設定すること

指導法改善のポイント

- 実験の目的に応じた条件を指摘し、条件制御の知識・技能を活用する活動を充実すること (→ 事例1)
- 課題に正対した考察を行う上で、観察・実験の結果のグラフを分析して解釈する活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1
実験の目的に応じた条件を指摘し、条件制御の知識・技能を活用する活動を充実すること

① 問題と解答の状況

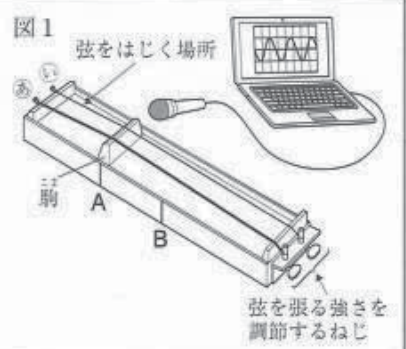
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
2(3)	第1分野 物理的領域	条件を制御し、実験を構想することができる。	・自然事象への関心・意欲・態度 ・観察・実験の技能

2 花子さんは、ギターで高さの違う音が出る仕組みについて興味をもち、2本の弦のついたモノコードで、弦の太さや長さ、音の高さとの関係について調べ、レポートにまとめました。あとの問いに答えなさい。

花子さんの実験レポートの一部

【方法】

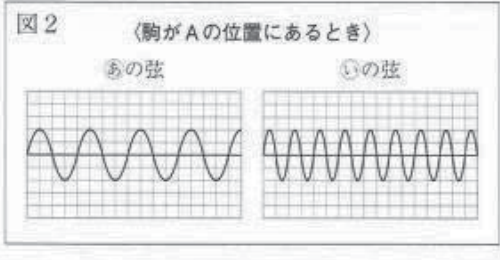
- 図1のように、太さの違う弦あ、①が張られたモノコードで、Aの位置に弦の長さを変える駒をつける。
- 指で弦をはじき、音の高さを調べると同時に、マイクとコンピュータを使って画面に現れる波の形を分析する。
- 弦の太さや弦を張る強さは変えず、駒の位置をBに変え、音の高さとコンピュータの画面の波の形を分析する。



【結果】

〈駒がAの位置にあるとき〉

- ①の弦をはじいたときの方が、高い音が出た。
- それぞれの弦をはじいたときの波の形は図2のようになった。



(3) 花子さんは、さらに「弦を張る強さ」と「音の高さ」との関係を、同じモノコードを使って調べたいと考えました。弦について、変えない条件を2つ書きなさい。

正答例・準正答例	誤答例	
弦の長さ (を変えない。)	駒の位置 (を変えない。)	
弦の太さ (を変えない。)	はじく場所 (を変えない。)	
(準正答) 駒の位置 (を変えない。)	駒の位置 (を変えない。)	
弦の太さ (を変えない。)	はじく強さ (を変えない。)	
	弦の太さ (を変えない。)	
	はじく強さ (を変えない。)	
	弦の太さ (を変えない。)	
	はじく場所 (を変えない。)	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
29.8% (11.8%)	63.4%	6.8%

② 指導法改善に向けて

この設問は、実験を計画して探究する過程で見いだされた新たな疑問について、実験を構想する設問である。実験方法での「変化すること (従属変数)」とその「原因として考えられる要因」及び「変える条件 (独立変数)」と「変えない条件」が整理されていないと考えられる。

指導に当たっては、「条件制御」の考え方を活用し、仮説を検証するための実験計画を立てることが必要である。また、「変える条件」と「変えない条件」を基に実験方法の妥当性を話し合う活動を授業の中に取り入れていくことも必要がある。

③改善事例 第1学年「光合成と二酸化炭素の関係」

1 指導のねらい

仮説を基に、仮説を確かめるための観察・実験の計画を構想する力を育成する。

2 具体例

課題 <植物は光合成をするとき、二酸化炭素を取り入れているのか>

(1) 実験方法を考え、自分の考えをもち、交流する。

【用いる道具】

- ・タンポポなどの葉
- ・試験管
- ・ゴム栓



試験管の中の二酸化炭素が減ったことを調べるには何がどのようにすればいいのかな？

【ポイント1】

仮説を確かめるための実験方法を構想する際、何を明らかにするのかを考え、変える条件と変えない条件を設定する。

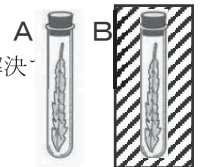
植物が光合成をした後の試験管は、二酸化炭素が減っていると思います。だから、石灰水を使って、その変化を見れば、課題は解決できると思います。



では、どのような試験管を準備したらいいかな？



植物は光を当てると光合成をするから、光を当てた時と、当てない時で比較すればいいと思います。光を当てる試験管Aと、光を当てない試験管Bを準備して、Aの石灰水が「変化なし」で、Bの石灰水が「白くにごる」という結果になれば課題を解決できると思います。
変える条件は、光の有無です。
変えない条件は、同じ大きさの植物、試験管に入れる二酸化炭素の量です。



この実験方法で課題を解決することができるのかな？
二酸化炭素が減ったのは本当に植物が原因といえるのかな？



光を当てただけで二酸化炭素が減るとしたら、植物が光合成で使ったとはいえないと思います。



【ポイント2】
課題について考えるために実験方法を改善する話し合いを設定し、他に変える条件は何かを考える。

Aの試験管と比較できるように、植物を入れないで光を当てるCの試験管を準備すればいいと思います。Cで、二酸化炭素の増減が、植物と日光どちらのはたらきによるものかを調べます。
Aと比較して、変える条件は植物の有無です。
変えない条件は光を当てること、試験管に入れる二酸化炭素の量です。

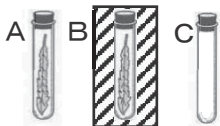


Cは植物がないので、光合成はできません。Cの条件では、二酸化炭素の量は変化しないと思うので、石灰水は「白くにごる」という結果になれば、課題を解決できると思います。

条件	試験管A	試験管B	試験管C
光	光を当てる	光を当てない	光を当てる
植物	植物あり	植物あり	植物なし
二酸化炭素	二酸化炭素あり	二酸化炭素あり	二酸化炭素あり
結果の予想	白くにごる	変化なし	白くにごる

【AとBの結果より】

変えた条件は、光の有無なので光合成によって二酸化炭素が減っているか確かめられる。



【AとCの結果より】

変えた条件は、植物の有無なので植物のはたらきによって二酸化炭素が減っているか確かめられる。

【ポイント3】

変える条件・変えない条件を整理し、仮説を基に結果の予想を話し合う活動を取り入れる。

イ 事例2

課題に正対した考察を行う上で、観察・実験の結果のグラフを分析して解釈する活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6(2)	第1分野 化学的領域	溶解度を基に、水溶液の温度を下げたときの溶質の質量の変化を考察することができる。	科学的な思考・表現

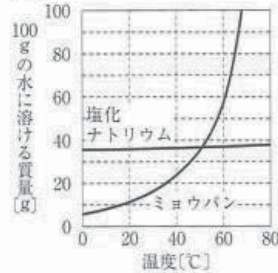
6 花子さんは、水に溶けた物質を結晶として取り出す方法について考え、実験を行い、その結果をレポートにまとめました。図1は、水の温度と100gの水に溶ける物質の質量との関係を表しています。あとの問いに答えなさい。

花子さんの実験レポート

【実験】

- ① ビーカーA、Bに60℃の水を100gずつ入れる。
- ② ビーカーAには塩化ナトリウム30g、ビーカーBにはミョウバン30gを加えてよく混ぜる。
- ③ ビーカーA、Bにふたをして、涼しい場所（10℃程度）に6時間程度置き、ゆっくり冷やす。

図1



【結果】

- ・ビーカーA … 60℃で全て溶け、冷やしても変化が見られなかった。
- ・ビーカーB … 60℃で全て溶け、冷やすと結晶ができた。

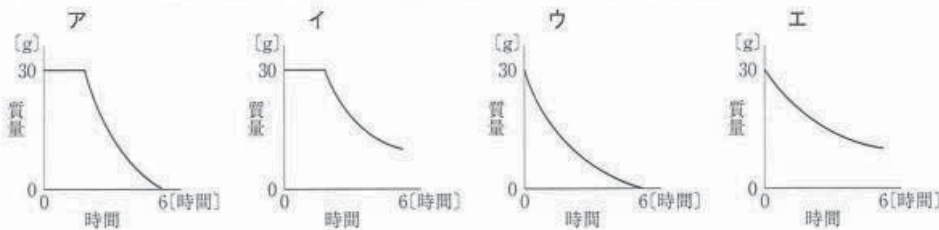
【考察】

- ・水に溶けた塩化ナトリウムは、冷やしても結晶として取り出すことはできない。
- ・水に溶けたミョウバンは、冷やすと結晶として取り出すことができる。

【振り返り・感想】

- ・塩化ナトリウムの結晶をつくる方法を調べてもう一度チャレンジしたい。
- ・塩化ナトリウムとミョウバンが混ざり合った混合物では、結晶のでき方にちがいがあがるか知りたい。

(2) 【実験】のミョウバンの水溶液について、60℃から冷やしたときの時間と、水溶液中に溶けているミョウバンの質量の関係を表したグラフを、次のア～エから1つ選びなさい。



正答例	誤答例	
イ	ウ エ ア	
正答率	誤答率	無解答率
26.0%	74.0%	0.0%

② 指導法改善に向けて

誤答としてウを選んでいる生徒が多い。示されている溶解度曲線から、水の温度が低くなると溶ける質量が小さくなることは読み取れているが、30gのミョウバンならば45℃程度までは、すべて溶けているはずと捉えられていない。溶解度曲線と実験の条件を関連付けて考察することや考察したことをグラフで表現することに課題があると考えられる。

指導に当たっては、実験結果をグラフで表現する力や実験結果のグラフを分析して解釈する力を身に付けさせることが必要である。その際、グラフの数値や状態を粒子モデルで表現したり、説明したりする学習活動を意図的に取り入れる必要がある。

③ 改善事例 第1学年「水溶液の性質」、第2学年「化学変化と質量」

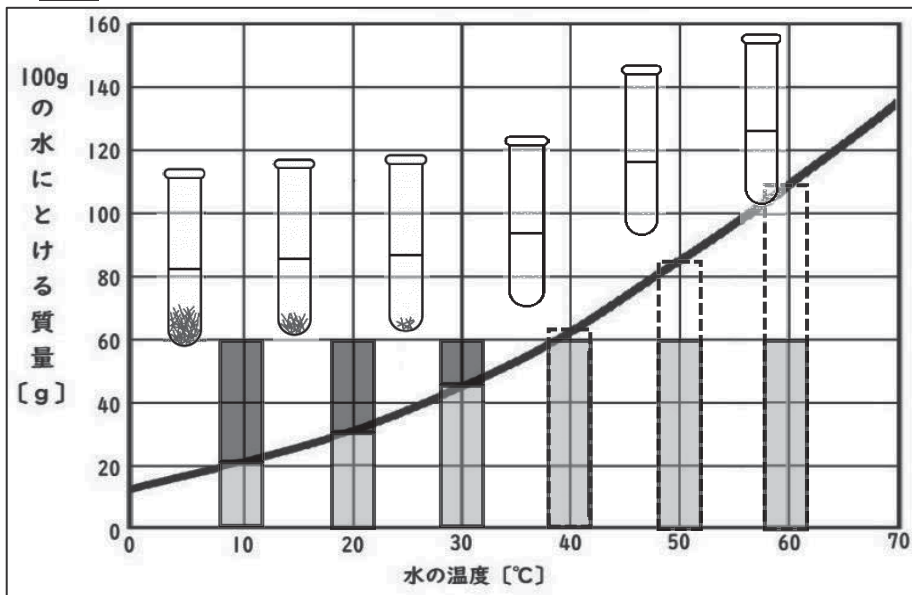
1 指導のねらい

課題に正対した考察を行う上で、観察・実験の結果のグラフを分析して解釈する力を育てる。

2 具体例

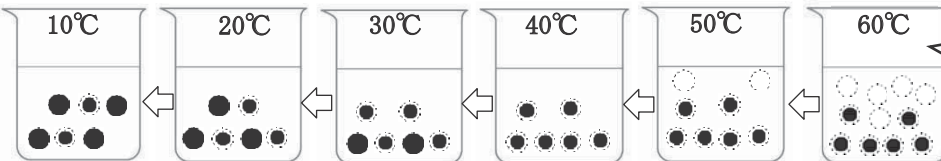
(1) 第1学年「水溶液」

課題 <硝酸カリウムは、なぜ結晶として取り出せたのだろうか>



【ポイント1】
実験で見られた現象とグラフを関連付けて考えることができるようにする。

【ポイント2】
棒グラフや粒子モデルで溶けている溶質の量やまだ溶けることのできる量、結晶の量を可視化したり、数値と結びつけて考えたりする学習活動を行う。



これは、60°Cの水100gに60gの硝酸カリウムを溶かした状態の粒子モデルです。この水溶液を冷やしていくと？

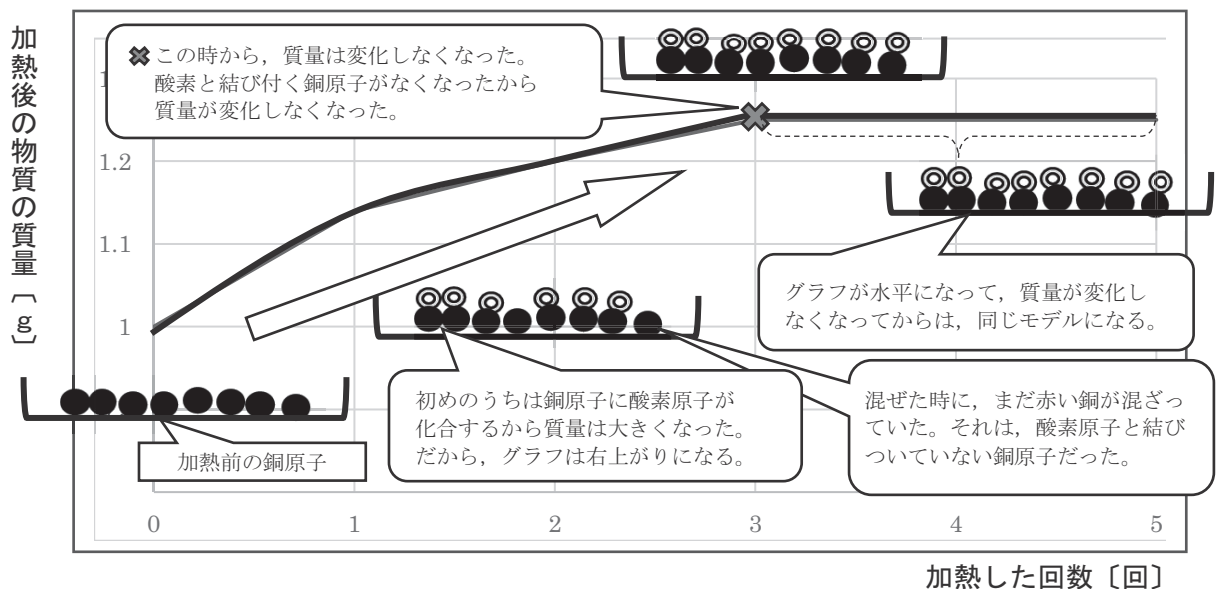
● 結晶になった物質, ● 水に溶けている物質, ○ 水に溶けることができる量

(2) 第2学年「化学変化と物質の質量の規則性」

課題 <銅を加熱し続けると、できた酸化銅の質量はどのようになるだろうか>

- ① 加熱した回数と加熱後の質量の関係を表すグラフを作成し、グラフから分かることを考える。
 - ・銅を加熱すると、質量は大きくなるが、やがて一定の値になる。
 - ・大きくなった質量は、化合した酸素の質量である。
- ② 実験結果のグラフを分析・解釈するために、粒子モデルと関連付けて考える。

● 銅原子, ◎◎ 酸素分子



Ⅱ 質問紙調査結果の分析・考察

1 小学校第4学年児童の調査結果

学校が好き、各教科等の勉強が好き、各教科等の授業の内容がよく分かると答えた児童の割合は、これまでと同様に、ほとんどの教科・領域で80%以上、高いものは90%を上回っており、全般的に小4児童の学習意欲は概ね良好である。

学びの12か条+ 4

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている」(92.8%)児童の割合は、これまでと同様に高い。

学びの12か条+ 8・9

○家庭での学習時間について、「学校の宿題をしている」(96.3%)児童の割合はこれまでと同様に高い。しかし、平日に勉強している時間が「30分より少ない」及び「全くしない」児童の割合(9.3%)は、30年度(8.2%)より1.1ポイント増加している。

・「テレビゲームを2時間以上している」(25.8%)、「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを30分以上している」(28.0%)児童の割合は、調査開始以来最も高く、今後、学習面や生活面においてどのような影響を与えるのか注視していく必要がある。

○「学校のきまりを守っている」(92.2%)、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」(91.6%)児童の割合は、これまでと同様に高い。

以上のことより、学力・学習を支える基盤づくりについては、概ね良好である。

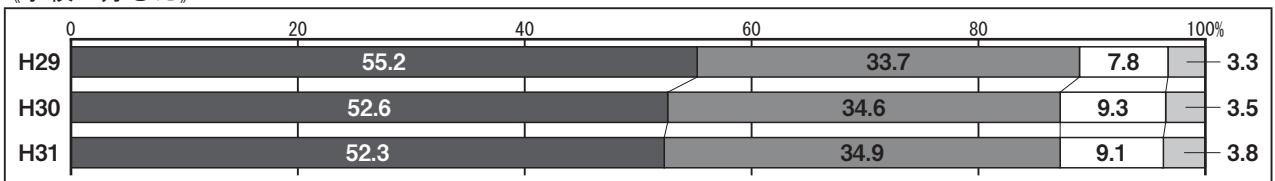
※無回答を除いた割合で示している。

1

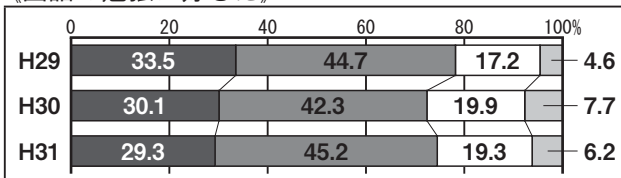
学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよくわかりますか。

あてはまる
 どちらかといえばあてはまる
 どちらかといえばあてはまらない
 あてはまらない

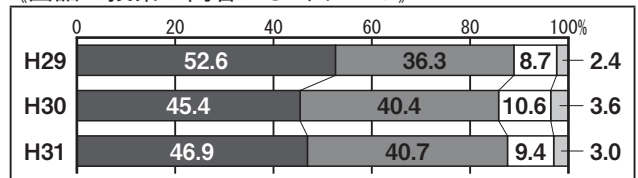
《学校は好きだ》



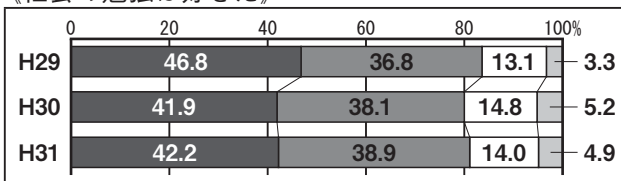
《国語の勉強は好きだ》



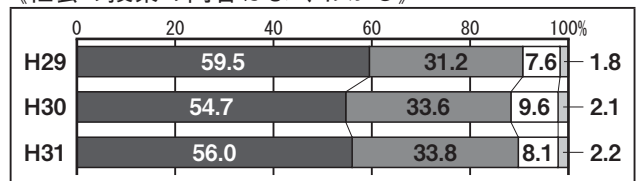
《国語の授業の内容はよくわかる》



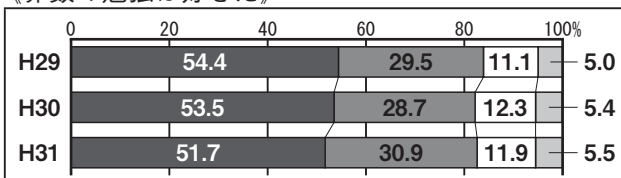
《社会の勉強は好きだ》



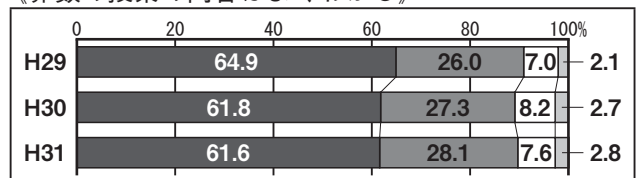
《社会の授業の内容はよくわかる》



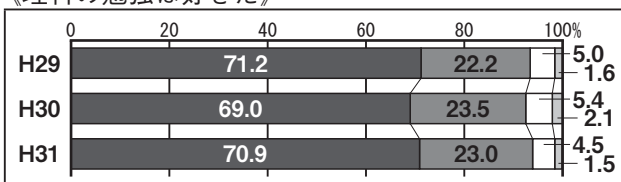
《算数の勉強は好きだ》



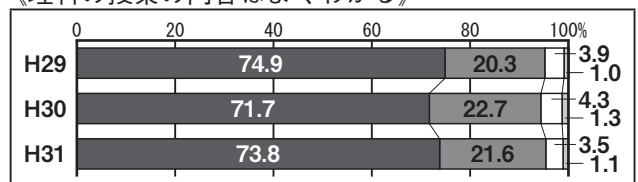
《算数の授業の内容はよくわかる》



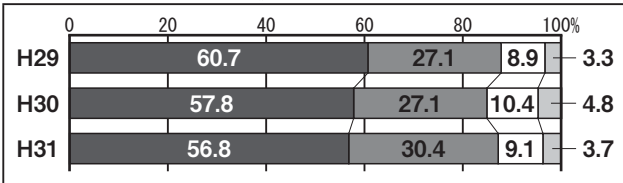
《理科の勉強は好きだ》



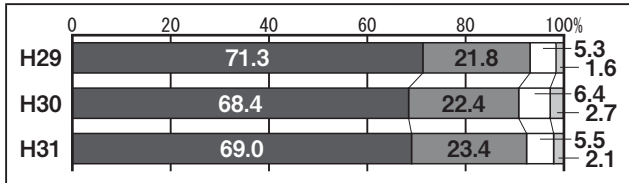
《理科の授業の内容はよくわかる》



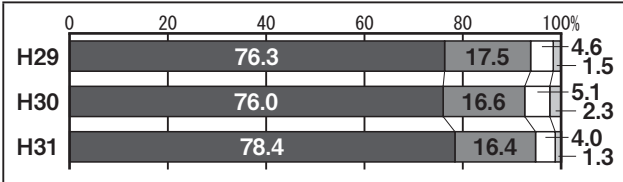
《音楽の勉強は好きだ》



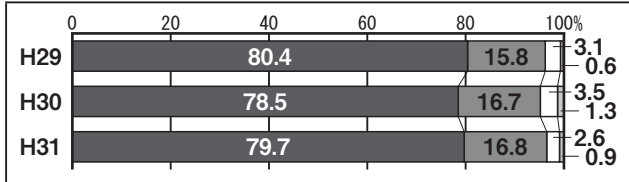
《音楽の授業の内容はよくわかる》



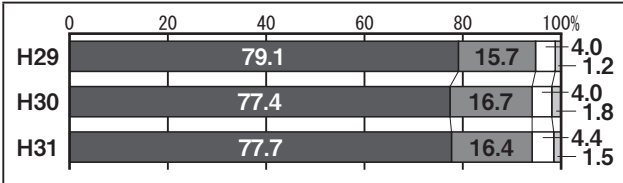
《図画工作の勉強は好きだ》



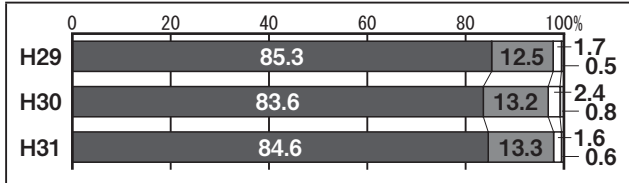
《図画工作の授業の内容はよくわかる》



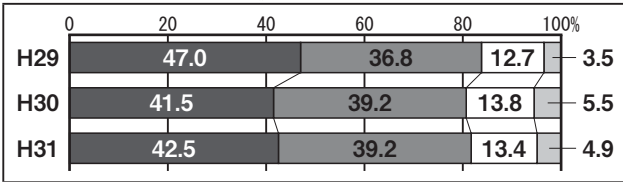
《体育の勉強は好きだ》



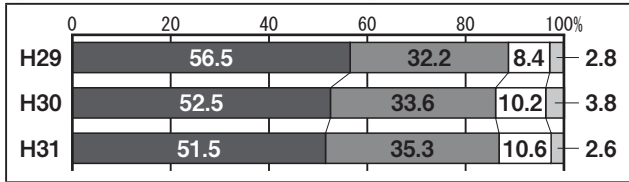
《体育の授業の内容はよくわかる》



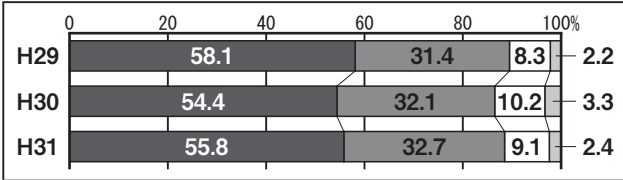
《道徳の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



《学級活動の時間は好きだ》

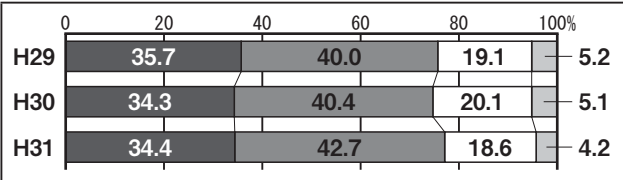


・《理科の勉強は好きだ》《理科の授業の内容はよくわかる》《図画工作の勉強は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ93.9%、95.4%、94.8%であり、調査開始以来最も高い。

＜参考＞

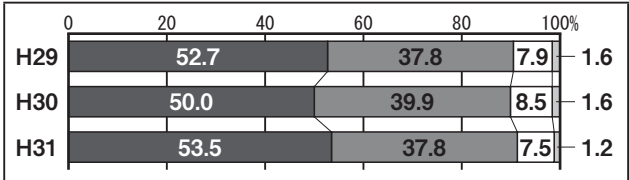
《社会の勉強は好きだ》

小6



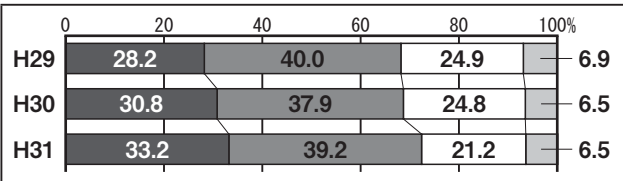
《社会の授業の内容はよく分かる》

小6



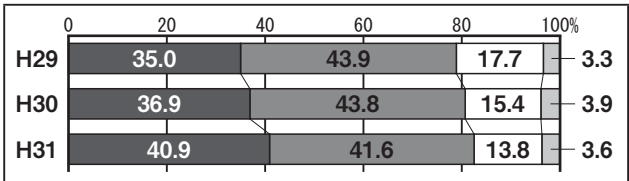
《社会の勉強は好きだ》

中3



《社会の授業の内容はよく分かる》

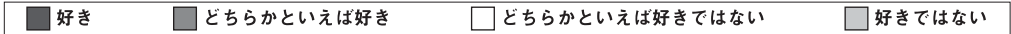
中3



・《社会の勉強は好きだ》《社会の授業の内容はよくわかる》について、肯定的な回答をした生徒の割合は、中3でそれぞれ72.4%、82.5%であり、調査開始以来最も高い。

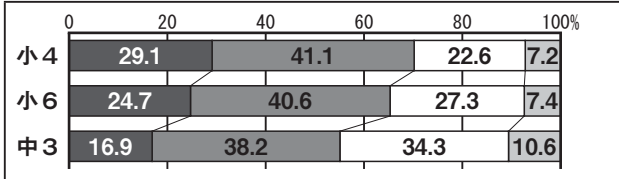
2

授業の中で次のようなことは好きですか。

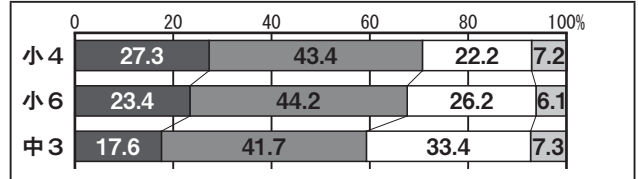


<学年間比較>

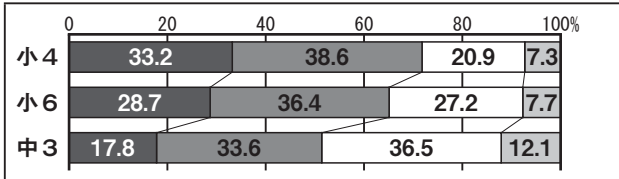
《自分の考えを發表したり、話し合ったりすること》



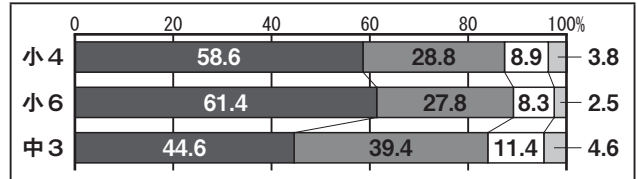
《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》



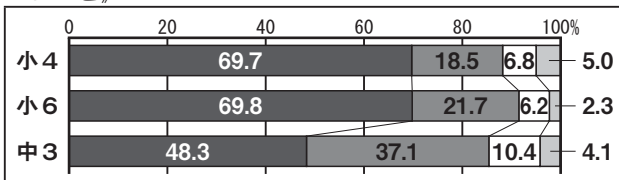
《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》



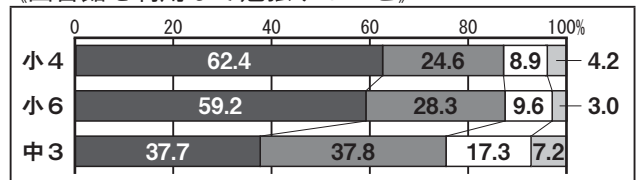
《少ない人数やグループで勉強すること》



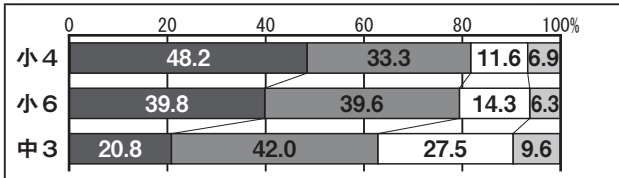
《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》



《図書館を利用して勉強すること》



《地域の人や専門家が来て教えてくれること》

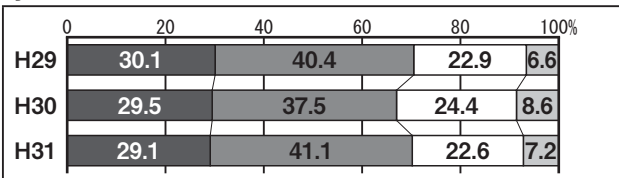


・《少ない人数やグループで勉強すること》《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、それぞれ84.0%～89.2%、85.4%～91.5%であり、いずれの学年においても高く、他の項目に比べて学年間の差が小さい。

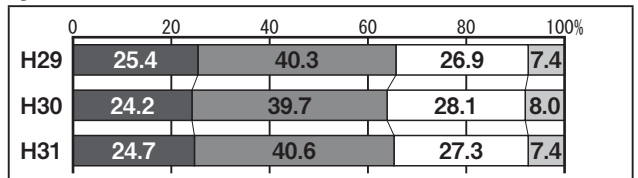
<参考>

《自分の考えを發表したり、話し合ったりすること》

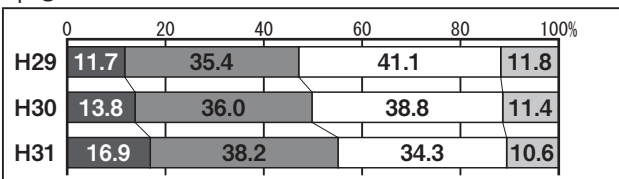
小4



小6



中3



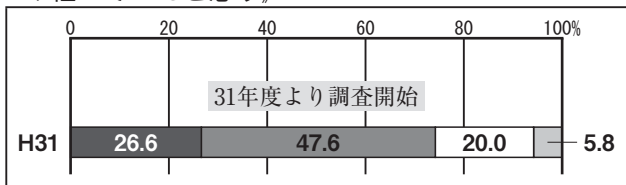
・《自分の考えを發表したり話し合ったりすること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、30年度より小4で3.2ポイント、小6で1.4ポイント、中3で5.3ポイント増加しており、中3の増加が3学年で一番大きい。また、中3の肯定的な回答をした生徒の割合は55.1%であり、調査開始以来最も高い。

3

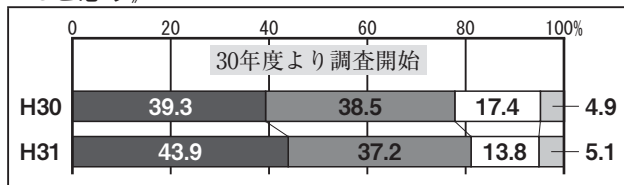
次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

あてはまる
 どちらかといえばあてはまる
 どちらかといえばあてはまらない
 あてはまらない

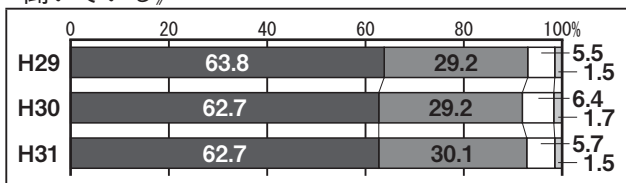
《授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



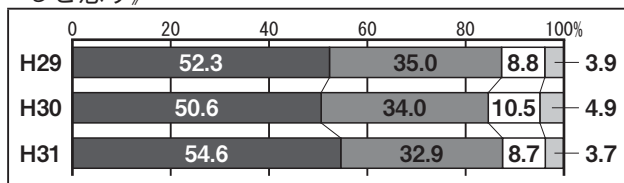
《道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う》



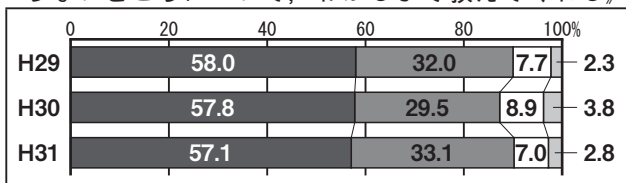
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



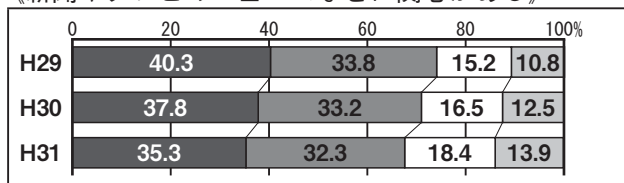
《先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う》



《先生は、授業やテストで間違えたところや、わからないところについて、わかるまで教えてくれる》



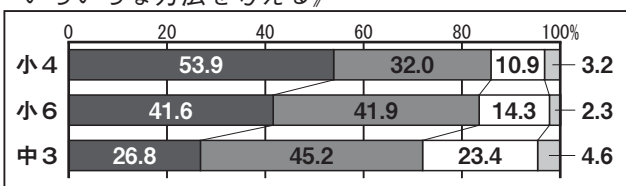
《新聞やテレビのニュースなどに関心がある》



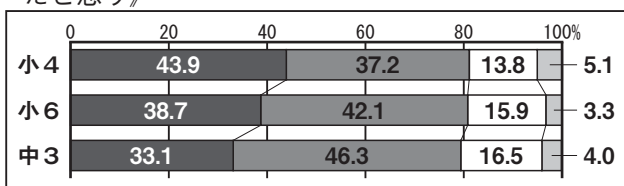
・《先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う》《先生は、授業やテストで間違えたところや、わからないところについて、わかるまで教えてくれる》について、肯定的な回答をした児童の割合は、87.5%、90.2%であり、調査開始以来最も高い。

＜参考＞学年間比較

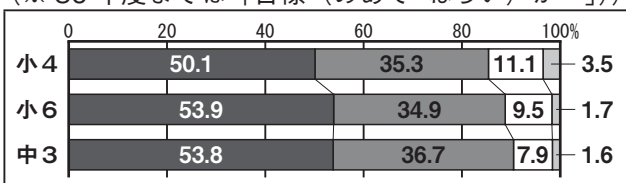
《問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》



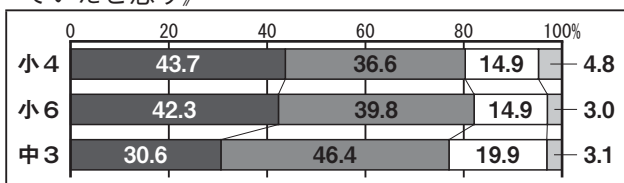
《道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う》



《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う》
 （※ 30年度までは「目標（めあて・ねらい）が～」）



《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》

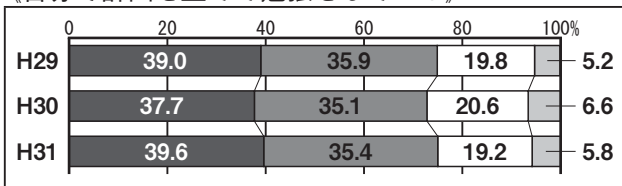


・《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、85.4%～90.5%であり、いずれの学年においても高く、中3の割合が3学年で一番高い。
 ・《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》の項目については、P.61 参照。

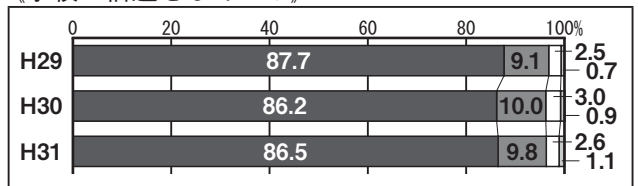
4 家で次のようなことをしていますか。

している
 どちらかといえばしている
 あまりしていない
 全くしていない

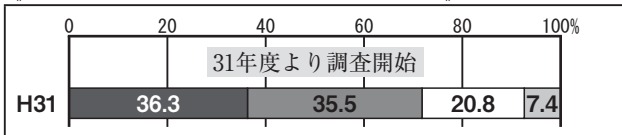
《自分で計画を立てて勉強をしている》



《学校の宿題をしている》



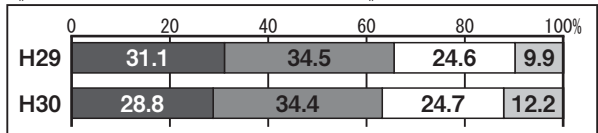
《学校の授業の予習・復習をしている》



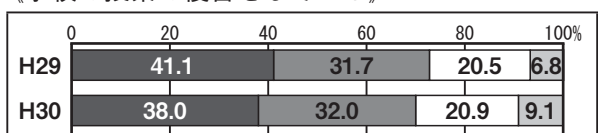
※30年度までは、「学校の予習をしている」と「学校の復習をしている」に分けて質問

<参考>

《学校の授業の予習をしている》



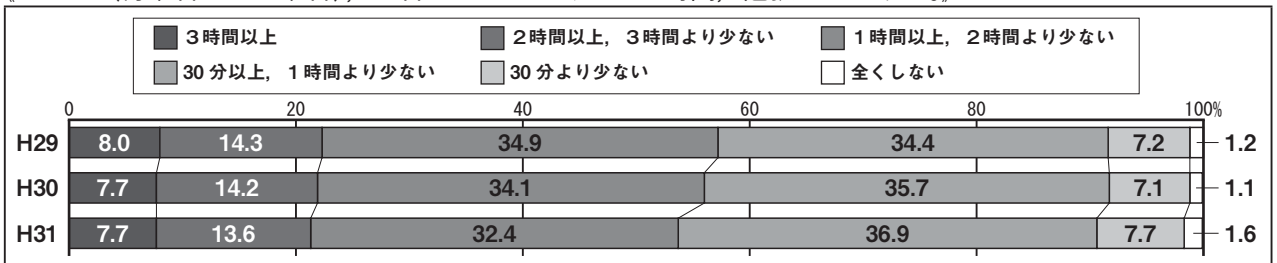
《学校の授業の復習をしている》



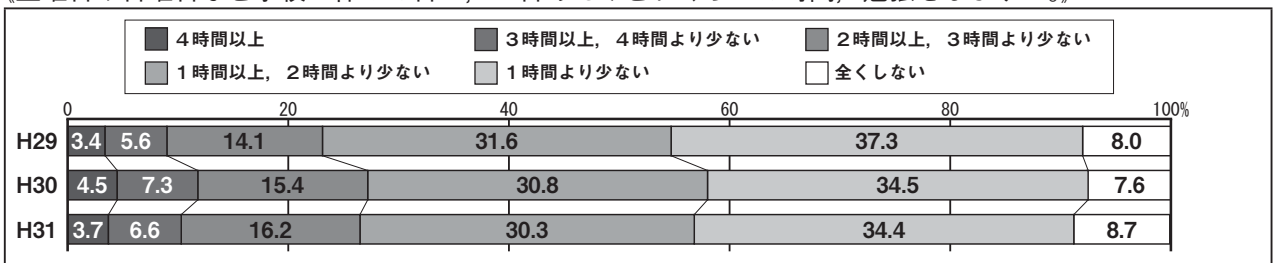
- ・《自分で計画を立てて勉強をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は75.0%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《学校の宿題をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は96.3%であり、これまでと同様に高い。特に、「している」と積極的な回答をした児童の割合は、他の項目に比べ群を抜いて高い。

5

《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



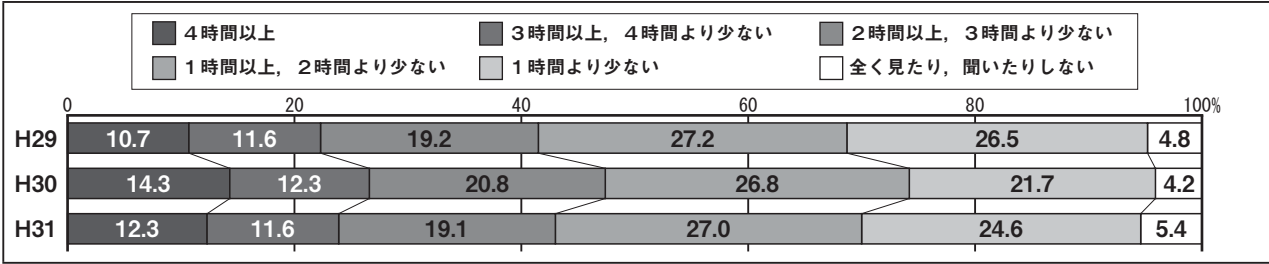
《土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



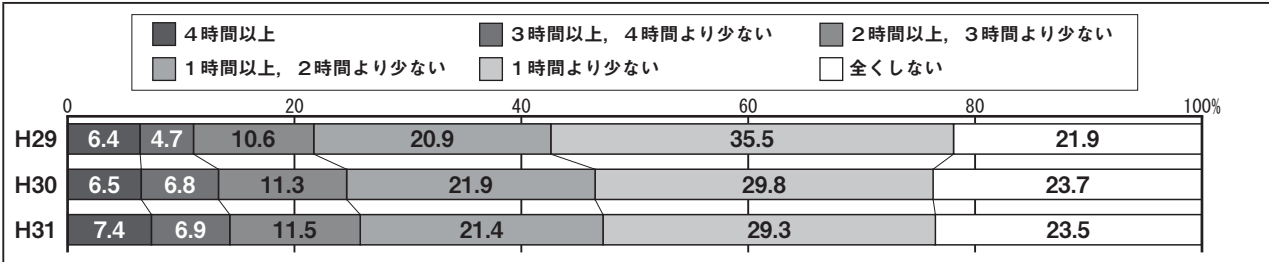
- ・家庭学習時間について、平日に勉強する時間が「30分より少ない」及び「全くしない」児童の割合は9.3%であり、30年度より増加している。

6

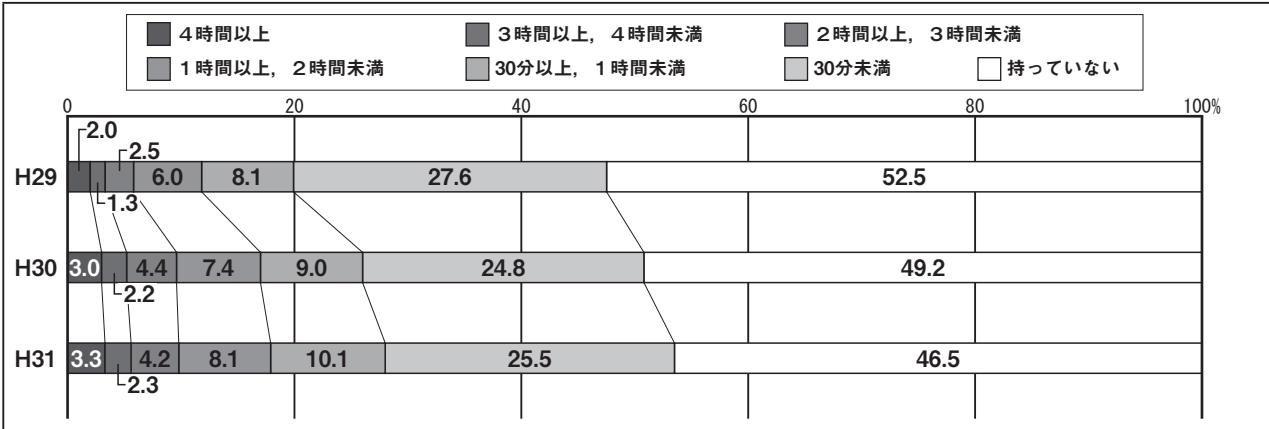
《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間はのぞきます。）》



《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくみます。）をしますか。》



《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》



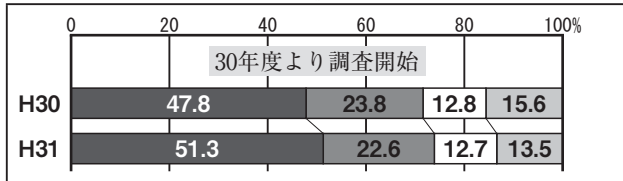
- ・ 普段のテレビ等の視聴時間について、「2時間以上」と答えた児童の割合は、43.0%であり、30年度より4.4ポイント減少している。
- ・ 普段のテレビゲーム等の使用時間について、「2時間以上」と答えた児童の割合は、25.8%であり、調査開始以来最も高い。
- ・ 普段の携帯電話やスマートフォンの使用時間について、「30分以上」と答えた児童の割合は、28.0%であり、調査開始以来最も高い。

7

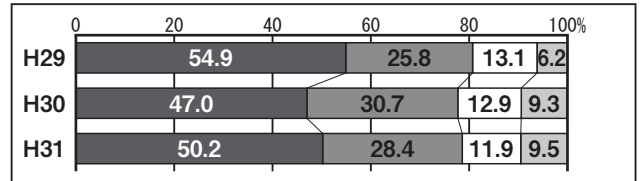
次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

あてはまる
 どちらかといえばあてはまる
 どちらかといえばあてはまらない
 あてはまらない

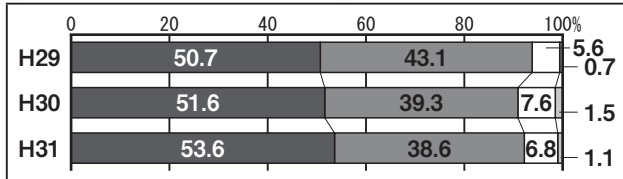
《テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている》



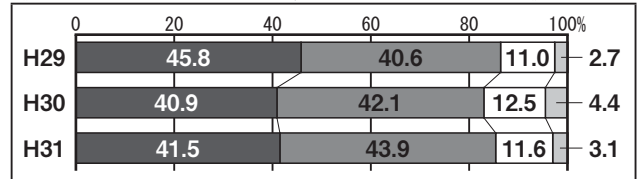
《学校での出来事について、家の人（兄弟姉妹はふくみません）と話をしている》



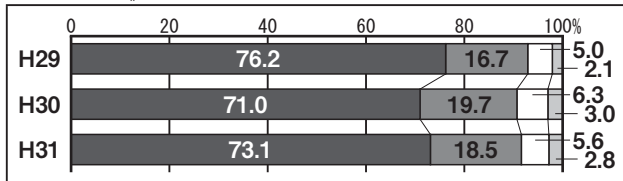
《学校のきまりを守っている》



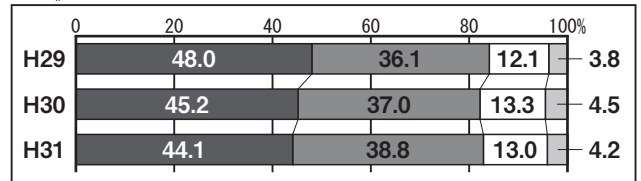
《人が困っているときは、進んで助けている》



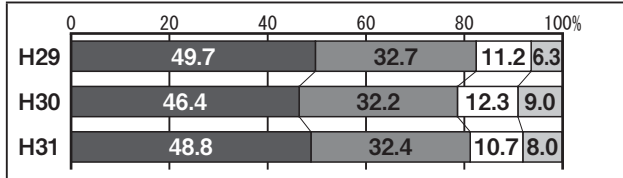
《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



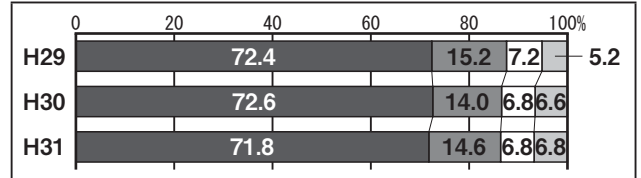
《難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している》



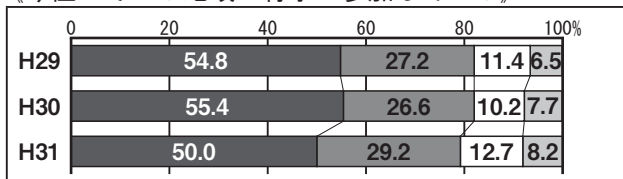
《自分には、よいところがあると思う》



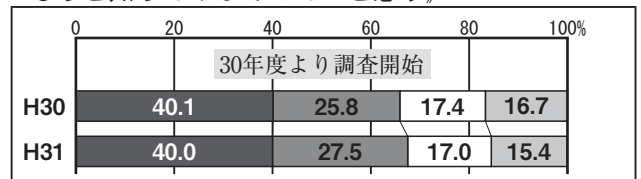
《将来の夢や目標を持っている》



《今住んでいる地域の行事に参加している》



《外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う》



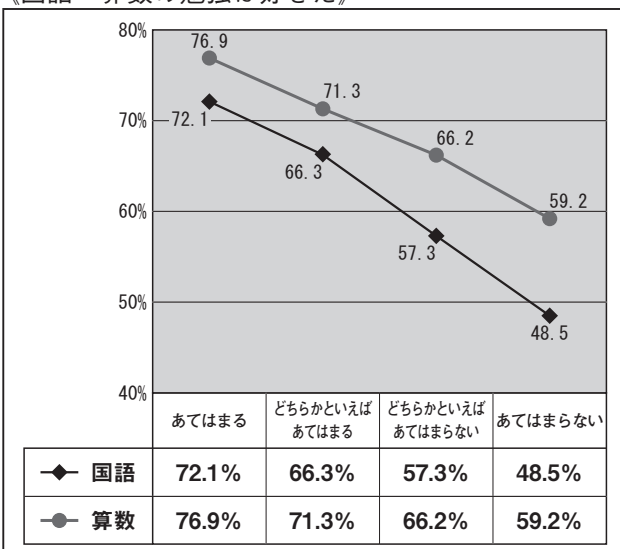
- ・《学校のきまりを守っている》について、肯定的な回答をした児童の割合は92.2%であり、これまでと同様に高い。また、「あてはまる」と積極的な回答をした児童の割合は53.6%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》《将来の夢や目標を持っている》について、肯定的な回答をした児童の割合は91.6%、86.4%であり、これまでと同様に高い。
- ・《自分には、よいところがあると思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は81.2%であり、これまでと同様に高い。
- ・《今住んでいる地域の行事に参加している》について、「あてはまる」と積極的な回答をした児童の割合は50.0%であり、30年度より5.4ポイント減少している。

2 学習・生活状況と正答率との関係

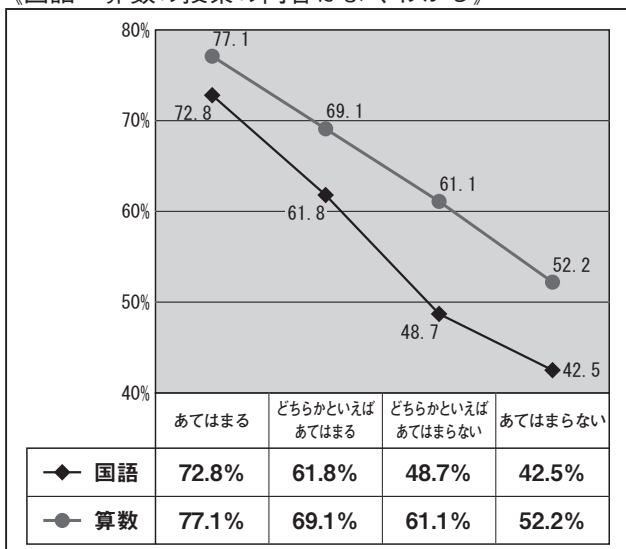
○小4児童の学習生活状況について、以下と回答している児童の方が、教科（国語・算数）の正答率が高い傾向が見られる。

- ・国語・算数の勉強は好きだ。
- ・国語・算数の授業の内容がよくわかる。
- ・授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う。
- ・授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う。
- ・自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・ふだん（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が少ない、または携帯電話やスマートフォンを持っていない。
- ・学校のきまりを守っている。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

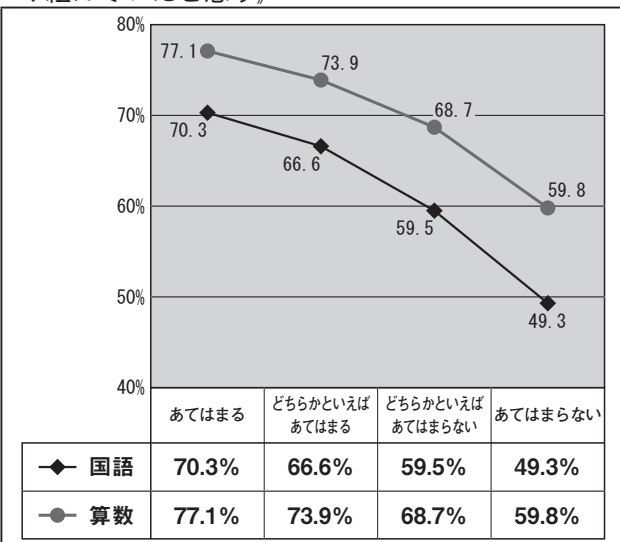
《国語・算数の勉強は好きだ》



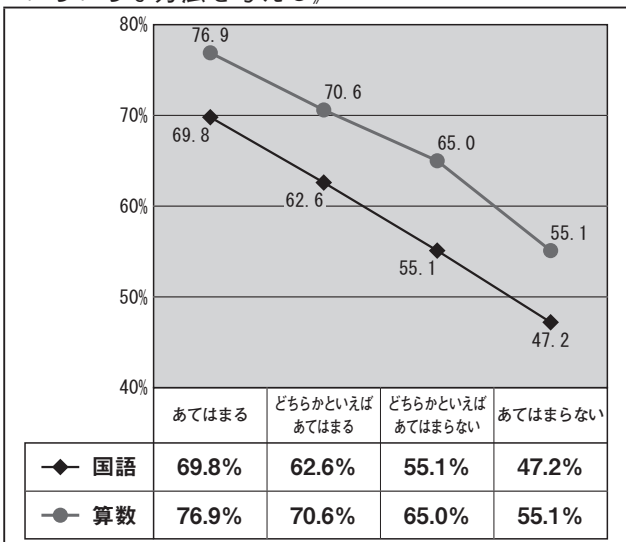
《国語・算数の授業の内容がよくわかる》



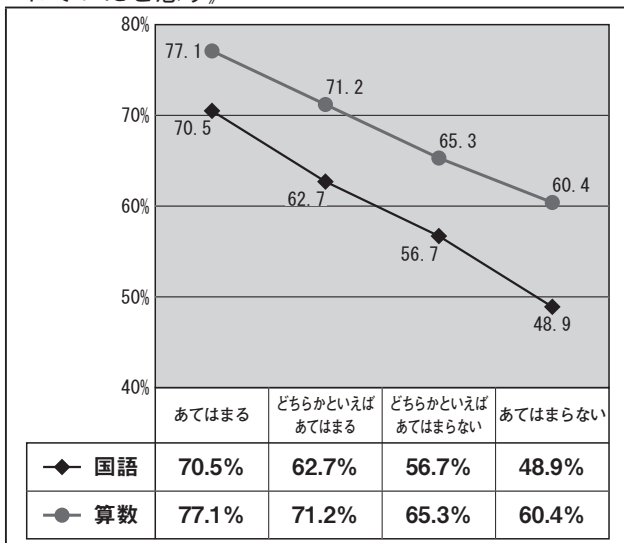
《授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



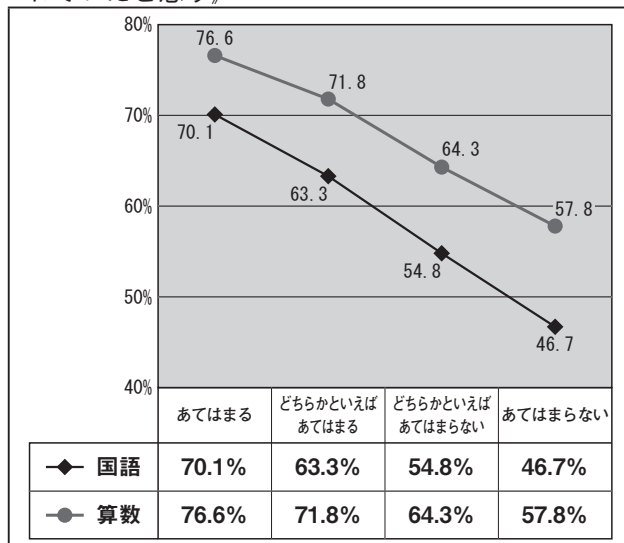
《問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》



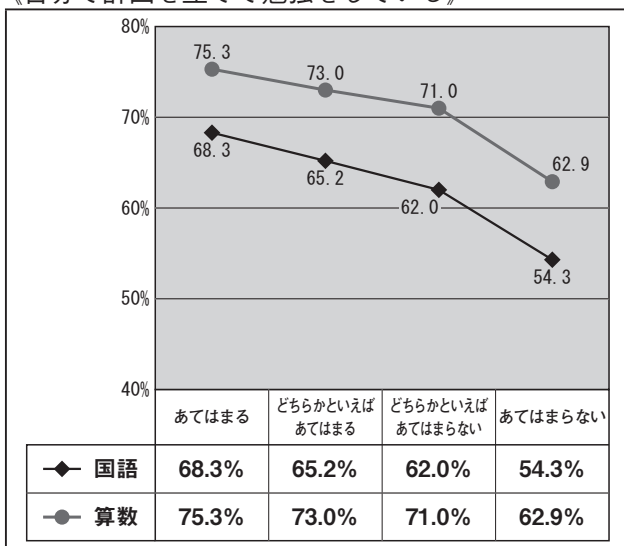
《授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う》



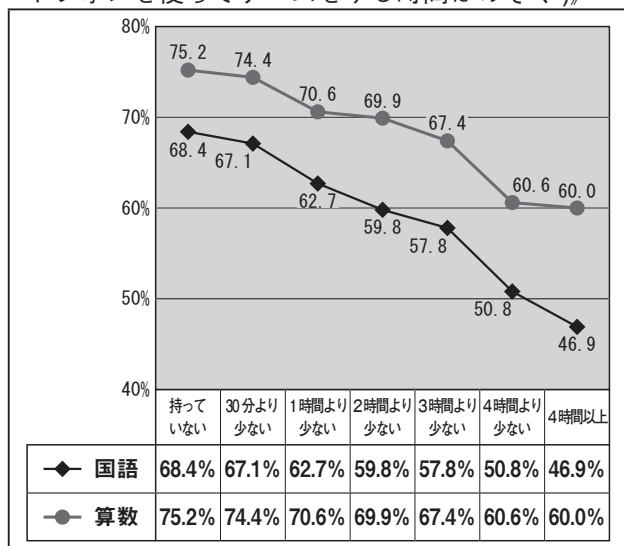
《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う》



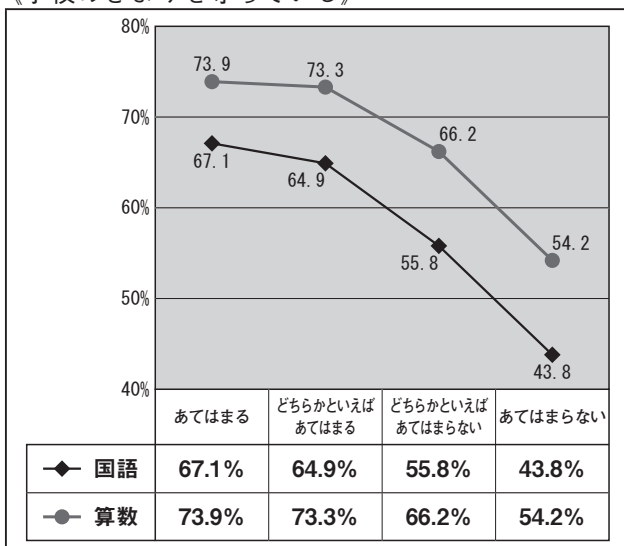
《自分で計画を立てて勉強をしている》



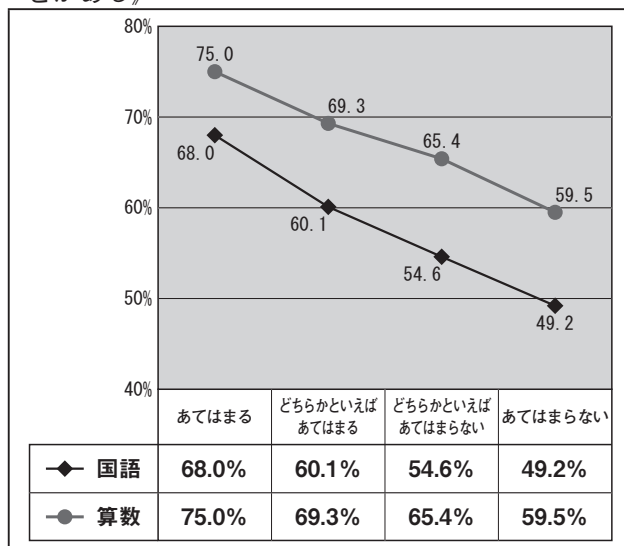
《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく）》



《学校のきまりを守っている》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



3 教員の調査結果

「1 学力の重要な要素に関すること」について、肯定的な回答をした教員の割合は、それぞれ90%以上であり（小学校で92.9%～99.1%，中学校で90.9%～97.6%），学力の向上に向けた教員の意識は概ね良好である。

学びの12か条+ 1・2

- 「児童生徒の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は，小学校では97.6%，中学校では95.4%であり，これまでと同様に高い。
- 「問題解決的な学習，実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して，活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている」教員の割合は，小学校では92.9%，中学校では90.9%であり，これまでと同様に高い。

学びの12か条+ 6・8

- 「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して，学び合う場を設けている」教員の割合は，小学校で98.0%，中学校で94.3%であり，これまでと同様に高い。
- 「児童生徒が取り組んだ宿題について，評価・指導を行っている」教員の割合は，小学校で98.6%，中学校で90.3%であり，これまでと同様に高い。また，「学校・学年・学級単位で，保護者に対して児童生徒の学習を促すような働きかけをしている」教員の割合も，中学校では年々増加している。

学びの12か条+ 10・11

- 「指導計画の見直しや改善に取り組んでいる」教員の割合は，80%台にとどまっているものの，「自校の『学力向上プラン』に基づく指導をしている」教員の割合は，90%以上と高く，指導法の改善を進める体制づくりが進んでいると言える。

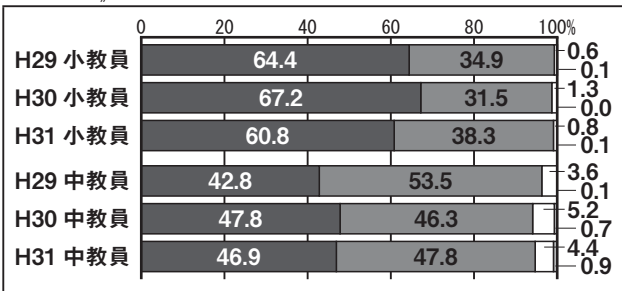
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

次の指導等を，昨年度からどの程度行っていますか。

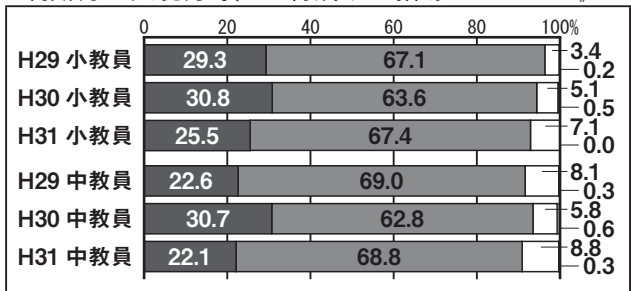


1 学力の重要な要素に関すること

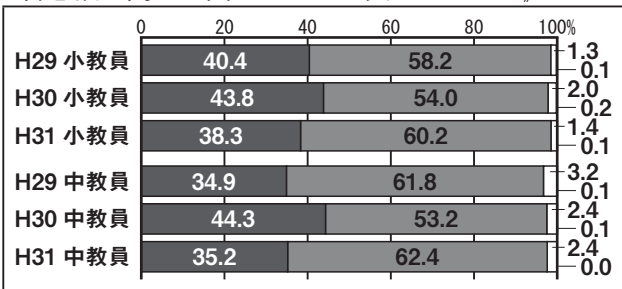
《繰り返し学習（音読，暗記・暗唱，反復学習など）を通して，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習，実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して，活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている》



《課題設定や授業展開，教材・教具の開発など，学習意欲の向上を図るための工夫をしている》



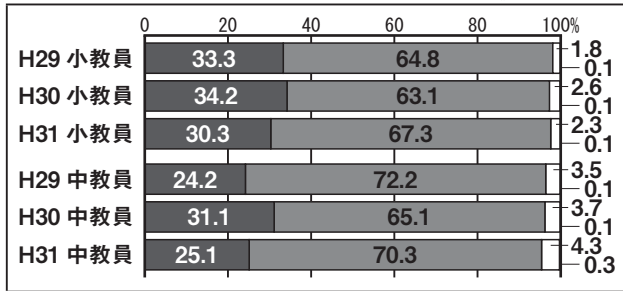
<肯定的な回答の割合が高い項目>

- ・《学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について，肯定的な回答をした教員の割合は，小学校で98.5%，中学校で97.6%であり，これまでと同様に高い。

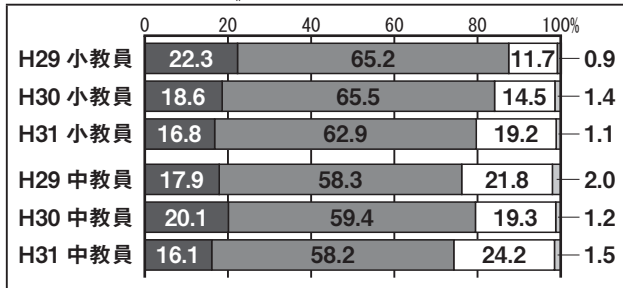
2

教科等に関すること

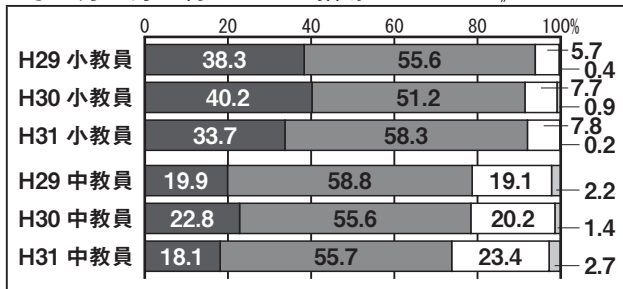
《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》



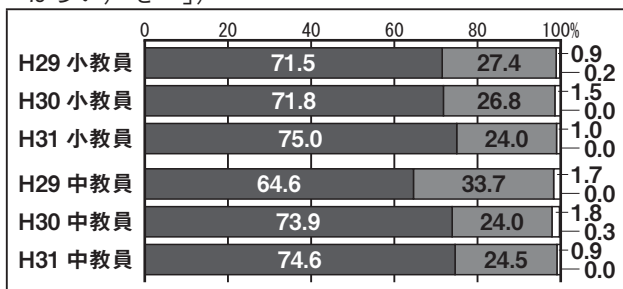
《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》



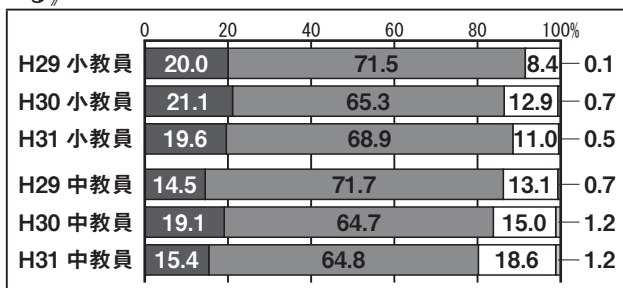
《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けさせる指導をしている》



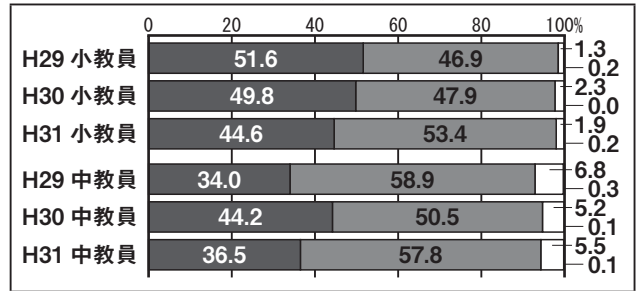
《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒に示している》（30年度までは「目標（めあて・ねらい）を～」）



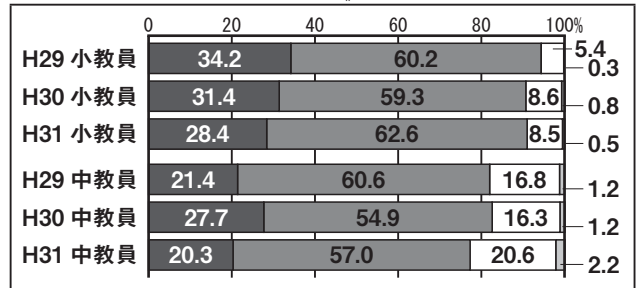
《授業において、明確な評価規準を基に児童生徒の定着状況を把握し、学習指導の改善に生かしている》



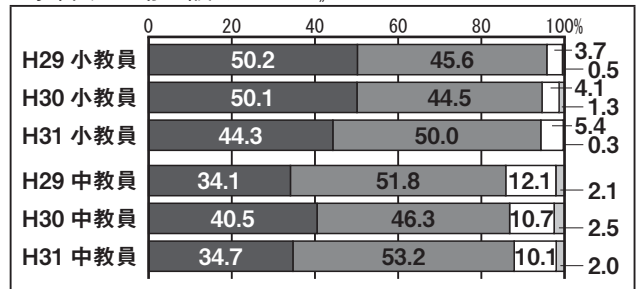
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》



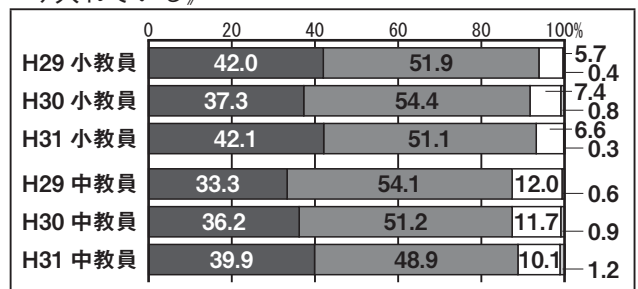
《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている》



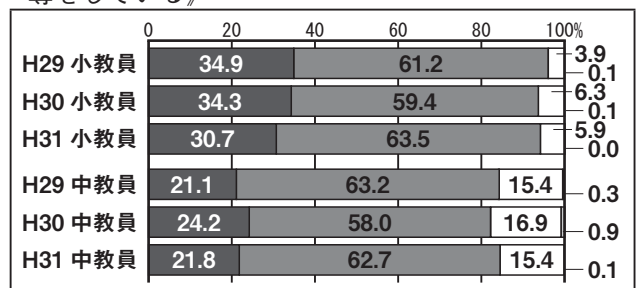
《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



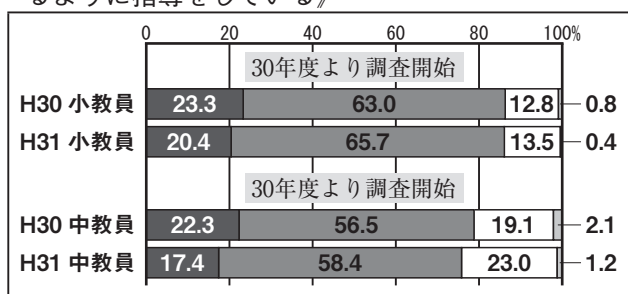
《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》



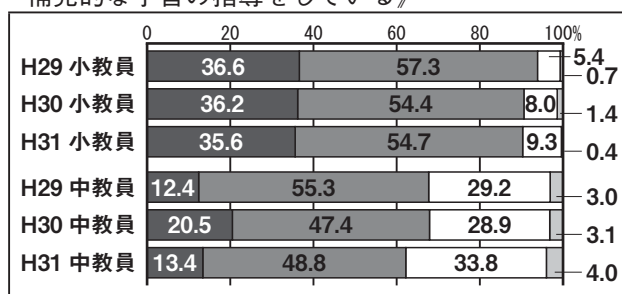
《授業において、児童生徒一人一人に自分の成長や変容を自覚させるなど、自信を持たせるような指導をしている》



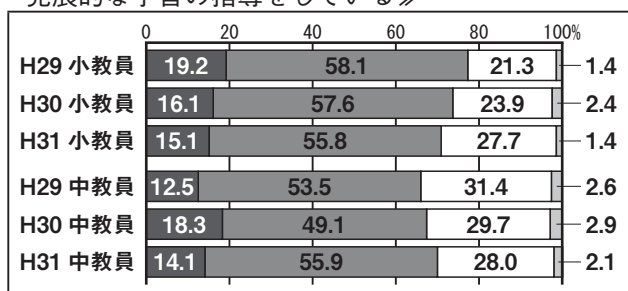
《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるように指導をしている》



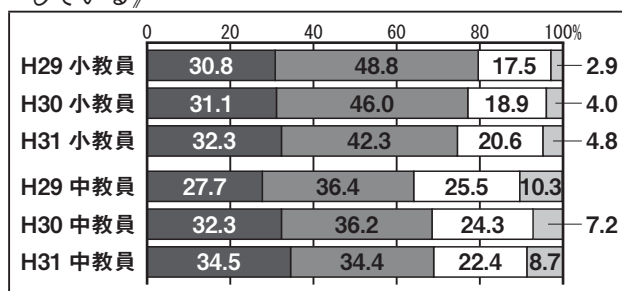
《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》



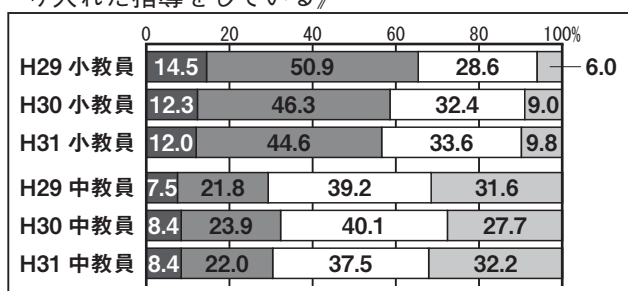
《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



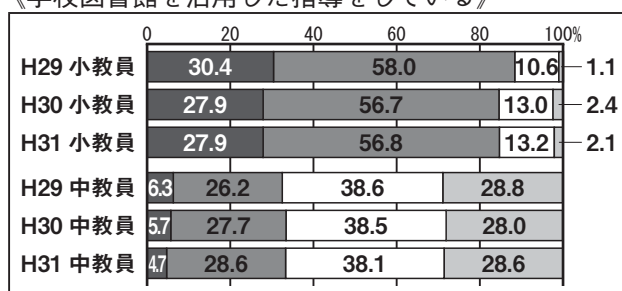
《コンピュータなどを使って、資料を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている》



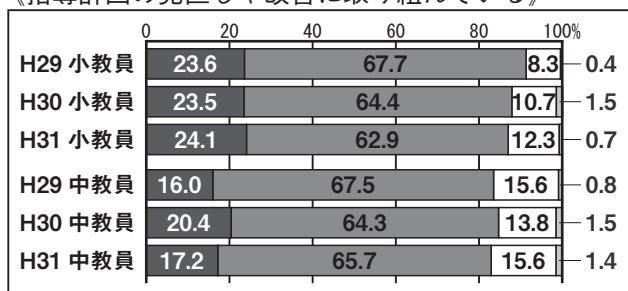
《児童生徒がコンピュータなどを使う学習活動を取り入れた指導をしている》



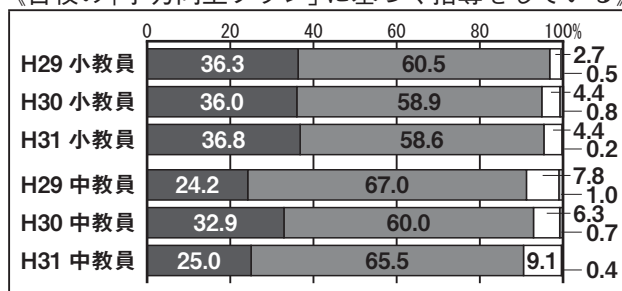
《学校図書館を活用した指導をしている》



《指導計画の見直しや改善に取り組んでいる》



《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

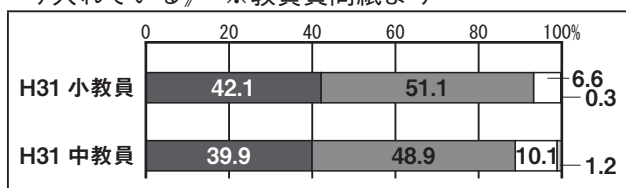
・《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒に示している》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で97.6～99.0%，中学校で94.3～99.1%であり、これまでと同様に高い。

＜30年度と比べて上昇した項目＞

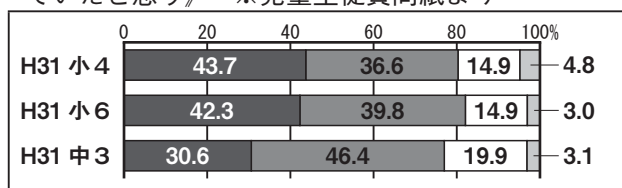
・《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》について、「よくしている」と積極的な回答をした教員の割合は、30年度より小学校で4.8ポイント、中学校で3.7ポイント、それぞれ増加している。

<その他、留意する項目>

《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》 ※教員質問紙より



《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》 ※児童生徒質問紙より

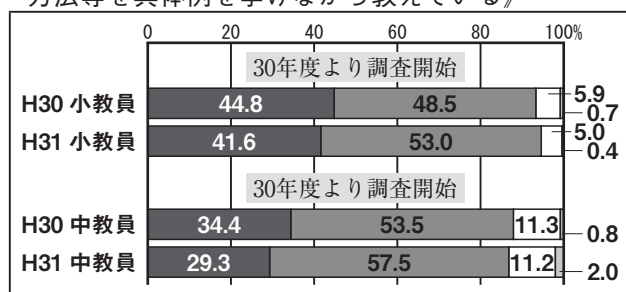


- ・《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で93.2%、中学校で88.8%であり、これまでと同様に高い。また、児童生徒質問紙調査結果では、《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で80.3%、小6で82.1%、中3で77.0%である。

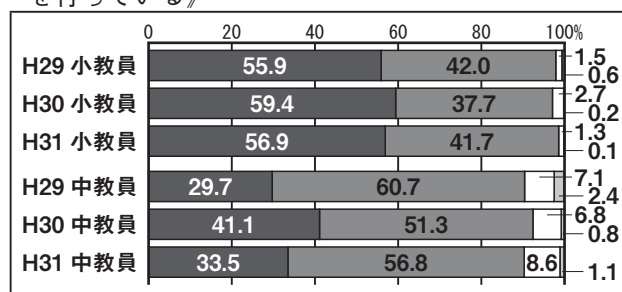
3

家庭学習に関すること

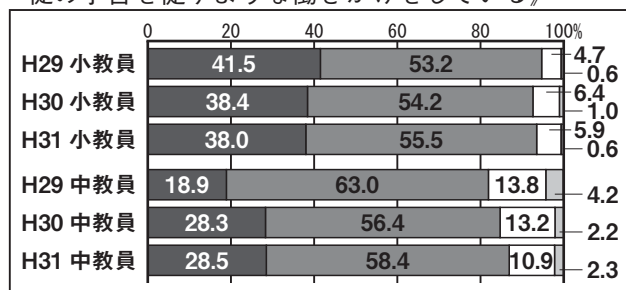
《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》



《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の学習を促すような働きかけをしている》



<肯定的な回答の割合が高い項目>

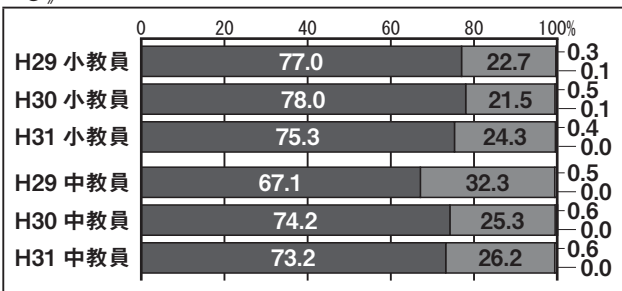
- ・《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.6%、中学校で90.3%であり、これまでと同様に高い。

<30年度と比べて上昇した項目>

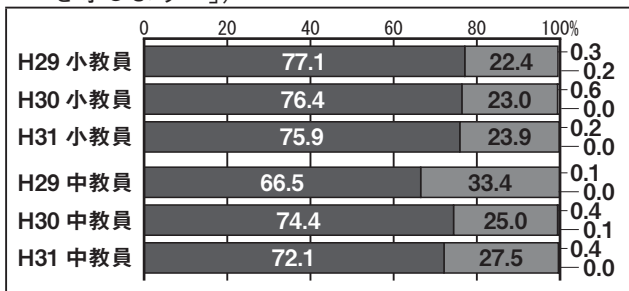
- ・中学校教員においては、《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の学習を促すような働きかけをしている》について、肯定的な回答をした割合は86.9%で調査開始以来最も高く、30年度より2.2ポイント増加している。

4 学習規律等に関すること

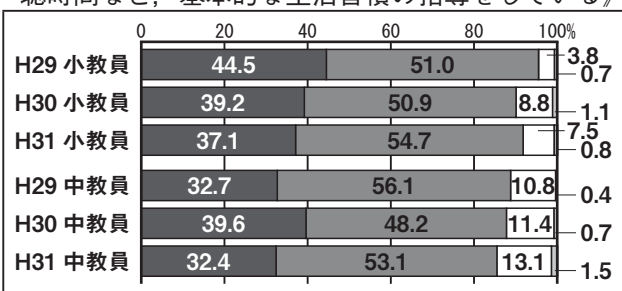
《私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている》



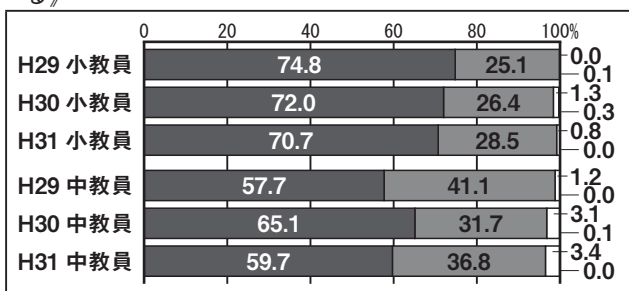
《児童生徒に、校則や集団生活のルール・マナーを守るよう指導をしている》(※30年度までは、「ルールを守るよう～」)



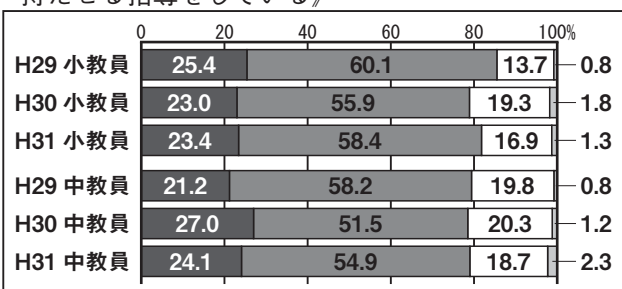
《児童生徒に、早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など、基本的な生活習慣の指導をしている》



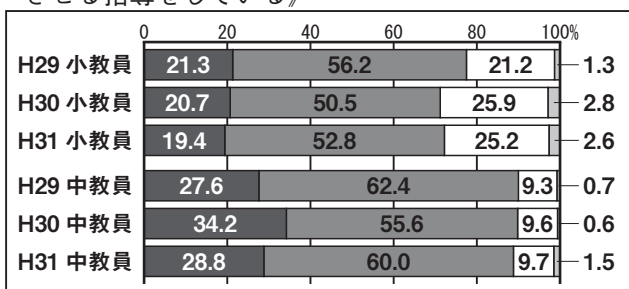
《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》



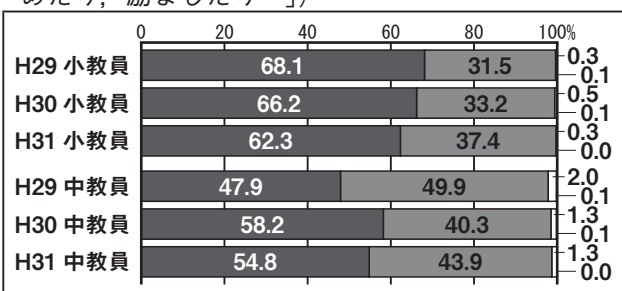
《地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持たせる指導をしている》



《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》



《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》(※30年度までは、「ほめたり、励ましたり～」)



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

・《私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている》《児童生徒に、校則や集団生活のルール・マナーを守るよう指導をしている》《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.2～99.8%、中学校で96.5～99.6%と、これまでと同様に高い。

改訂 いしかわ学びの指針12か条【^{プラス}学びの12か条+】

活用力を高める授業づくり

1. 物事を多様な観点から考察する力の育成

- ◇得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
- ◇他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方・受け取り方が身に付くようにする

2. 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

- ◇知識・技能を活用して主体的・協働的に課題解決に取り組む学習【アクティブ・ラーニング】を進める
- ◇各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

3. 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- ◇考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- ◇思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

学力・学習を支える基盤づくり

4. 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成

- ◇目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
- ◇相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う態度や姿勢が身に付くようにする

5. 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成

- ◇目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
- ◇文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする

6. よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視

- ◇多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
- ◇目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする

7. 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進

- ◇メディアの特性を生かした授業づくりを進める
- ◇学校・地域にあるリソースを生かし、ICTの活用スキルの確実な定着を進める

8. よりよい学習習慣・生活習慣の定着

- ◇家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣づくりを推進する
- ◇豊かな思考・判断の基盤となる子供の語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する

9. 家庭や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの促進

- ◇家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
- ◇社会の出来事に関心を持たせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識を持つことができるようにする

指導改善を進める体制づくり

10. 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進

- ◇学校全体で目的を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
- ◇小中連携を推進し、指導の連続性を図る

11. 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

- ◇児童生徒の現状把握から原因を究明し、目標に照らした課題とその解決に向けた具体策を設定する
- ◇中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向けスモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】

12. 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

- ◇学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し、情報公開に努め、目標や課題を共有する
- ◇地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域で子どもを育てる環境づくりを進める

平成 31 年度（令和元年度）

「基礎学力調査」—分析・考察と指導事例—

令和元年 10 月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地

TEL.076-225-1827

e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp